

教室だより

第126号

平成24年6月11日（月）

主な内容

- ・ 須原英数教室を訪問させていただいて 2
- ・ 地元の高校を応援！ 5
- ・ 朝日新聞『今解き教室』 7
- ・ 『学習塾百年の歴史』発刊 12
- ・ 寄稿 10年間須原英数教室で学んで 25
- ・ シリーズ③公立高校トップ10 31
- ・ 2012年度教室進学状況 35
- ・ 短信・編集後記 40

平成24年6月11日発行
須原英数教室
10周年記念

須原英数教室を訪問させていただいて

『教室だより』第124号に掲載しておりますが、NPO 国際教育文化支援機構主催『第4回小学校英語活動研究会』(2010年3月13日 大阪市立総合生涯学習センター研修室)にて、私は『中学校・高等学校における英語指導一塾からの視点ー』というテーマで講演をしました。その折、もうお一人『新学習指導要領にともなう小中高の英語一貫指導について』というテーマで講演なさったのが大阪教育大学教授 加賀田哲也先生でした。その時以来、加賀田先生は私の教室での教育指導に興味を抱いて下さっていたご様子です。

昨年12月27日(火)の夜、加賀田先生は私の教室を訪問され、2時間余り『授業参観』をして下さいました。その授業は『冬期特別集中講座』でした。教育を専門になさる先生に教室を訪問していただけるだけでも『塾』としましては至極名誉なことですが、私の教室の指導を高く評価して下さい、この喜びをどう表現していいかわからないくらいです。加賀田先生は英語の指導がご専門で、大学で学生を指導されるばかりでなく、府下の中学校・高校の英語教師の指導もされている方です。私の教室ではボランティアで『速読英単語』の暗唱指導までして下さいました。

数日後、年が明けてから先生より上記の題で嬉しいメールをいただきました。お許しを得て、そのまま全文を掲載いたします。このように私の教室での指導をほめていただけるのは、生徒諸君や保護者の皆様との間に『深い信頼関係』があるからだと思うわ、と妻も喜んで私に話しておりました。私の教え子は5~6年、長い子では10年近く教室で勉強を続け、その長い間に自分の道を自分で切り開いていく力を身につけてくれますから、先生の指摘される様な指導が可能になっていると思います。

Hidekazu Suhara

送信者: "加賀田 哲也" < >
宛先: "須原先生" <hlk@alpha.ocn.ne.jp>
送信日時: 2012年1月5日 21:46
添付: 須原英数教室を訪問させていただいて.doc
件名: 明けましておめでとうございます

須原先生とは、ほぼ1年半前にある英語研究会で知り合ってから、先生の教育観にはずっと関心を持っておりました。そこで、昨年末に思い切って、お電話で須原先生の教室を訪れたいという私の一方的な思いをお伝えしたところ、即ご快諾して下さいました。須原先生とは数時間ご一緒しただけですが、実にたくさんのことを学ばせていただきました。また、教育者としての私のこれまでの営みがいかに稚拙で皮相的なものであったかを悟る瞬間でもありました。

その日は「特別集中講座」というクラスを見学させていただきました。須原先生は最初に本日の流れをご説明なされただけで、すぐに下の教室へ向かわれました。このあと一体どうなることかと興味津々でしたが、生徒さん達は個々に黙々と学習してはおりませんか！誤解のないように申し上げますが、須原先生は生徒さん達を放っちらしやるわけではありません。生徒さん一人ひとりの自主性を完全に尊重されていらっしやるだけなのです。このように子どもたちの学習に対する自主性を重んじ、学習内容の選択権を個々に与えるこ

とは、本人が学習に対して責任を負うことを意味し、このような学習を継続することで、自己の学習習慣や学習スタイルを省察したり、延いては、自律的な学習者へと導いていくものです。

教室での須原先生の役割は **instructor**（指導者）というより、**facilitator**（支援者）でありました。適宜、生徒さんに寄り添い、励ましやアドバイスを与えていらっしゃいます。生徒さんが勉強したいところを伝えると、即、問題が提供されていました（先生のパソコンには過去の入試問題から大手の問題集の練習問題まで実にたくさん問題がインストールされており、一見の価値ありです！）。また、生徒さんと雑談されているお姿は、まさに **fatherly/parental image**（父親としての像）そのものでした。須原先生が生徒さんを自分のお子様のように愛し、また、生徒さんも先生に心から信頼をおいている様子を目の当たりにし、まさに「真の教育者」としての須原先生を感じ取ることができました。

須原先生は、ご自身の教室を「ここは、進学塾でも、補習塾でもありません。ここでは、子どもたちが自ら学習の意味を見出し、「分かった」という体験を積み重ねていくことを大事にしています。このことが、子どもたちを志望校へと誘うのです」とおっしゃっていました。このお言葉は、すべての子どもたちに潜在する「自己成長力」を信じて関わることの重要性を示唆するものです。

私は英語教育を専門としていますので、他教科のことはよく分かりませんが、「速読英単語」をひたすら英訳している、あるいは暗唱している生徒さんを拝見した時には、私が今教えている将来英語教員志望の大学生のどれくらいがこのタスクを達成できるだろうかとふと考えてみました。英語ができる子もそうでない子も「英語を話したい、英語が話せれば、かっこいい」という思いを抱いています。しかしながら、英語を話すためには相当のインプット量が必要となります。そのようなインプット量を確保するためには「速読英単語」は有効な教材だと思います。「速読英単語」のこのような活用法は、繰り返しを要する地道で退屈なものかもしれませんが、「確かな学力」の養成に通じることは間違いありません。将来、須原英数教室の子ども達が地球市民の一人として世界へはばたく時、きっとその恩恵を受けるはずで

す。

須原先生が強調なされていたことに、「国語力の育成」が挙げられます。思考の手段はやはり母語です。母語で表現できないことは、外国語ではさらに難しくなるはずで

す。こういった意味で、英語学習にもやはり国語力が必要となります。入試で英文和訳を採点するたびに、支離滅裂な日本語が多いことに失望させられます。自分が読んで分からない文章は他人が読んで分からないのです。いくら英文の構造が理解できていても、その英文の内容を適確な

日本語で表現できなければ印象が悪くなるのは当然です。和文英訳の場合にも当てはまります。難関大学の入試問題では、まずは日本語を解釈、分析することから始めなければいけません。小論文や面接にも確かな日本語力が要求されることは言うまでもありません。そのためにも、須原先生がおっしゃるように、新聞を読むことを習慣づけ、論理的思考力、批判的思考力を常に養っていくことが大切です。

須原英数教室では、高2の夏以降はクラスが無料で開講されています。しかも途中でティータイムもあります。この日は、女子生徒さんが皆のためにアイスキャンディーを持ってきていました。自己愛的傾向を示す子どもたちが多い昨今、また、経済的な変動が激しい昨今、須原先生のこのような教育実践は、他者の喜び、悲しみ、痛みをあたかも自身のこととして共感的に受け入れることができる「豊かな人間性」を持つ子どもたちの育成にもつながるものです。須原英数教室で学んだ子どもたちは、学力面の伸長にはもちろんのこと、情緒的な成長にもあずかっていると思います。

最後になりましたが、今回訪問の機会を与えてくださった須原先生に心から感謝するとともに、須原英数教室の益々のご発展と、須原先生ご夫妻のご健勝を心よりお祈り申し上げます。



英語だけでおよそ10分間スピーチをされ、その後日本語でその内容を解説されました。先生の中学・高校時代の話やアメリカの大学・大学院での勉強の様子など、生徒諸君たちは熱心に耳を傾けました。目の前で聞く生の英語のスピーチという素晴らしい経験をさせていただきました。加賀田先生ありがとうございました。



地元の高校を応援！

2月と5月に大阪府立八尾高校の杉尾哲校長先生と首席の黒田和男先生が私の教室を来訪されました。校長先生のお話では『八尾高校には歴史と伝統がありますが、それを大切にしつつも八尾高生の学力をより一層伸ばしたい。また残念なことです、どうしても高校生活に行き詰まる生徒が出てきます。その時どのようにその生徒と個別に向きあうべきか。更にはそのような生徒を出さないように学校全体としてどう取り組むべきか。』といった点で、私の教室での学習指導や生徒・保護者との関係について参考にしたいとのことでした。

私は普段教室で使っています教材を披露し、日常の生徒との触れ合いについて具体的な例を挙げて正直にお話いたしました。先生は、特に数学の『カード式例題演習』に興味を持たれた様子でしたが、『ぜひ内の先生方に直接話を聞かせていただきたい』と依頼を受け、結局5月24日（木）に『公開初任者研修』という場で90分間話をするることになりました。

15名の先生方と校長室の大きなテーブルを囲み、前半は『生徒と先生のより深い信頼関係を構築するために』、後半は『八尾高生の実力をより伸ばすために』という2点に絞り、それぞれできる限り多くの具体的な例を挙げて話を始めました。その概略を述べますと、○信頼関係が希薄なところでは学習指導も生活指導も十分には出来ないこと。深い信頼関係構築のためには普段からどのようなことに心を配るべきなのか。○私の教室で使っている教材は全部市販されている普通のものだが、大切なことはその使い方とそれを使う生徒の意識の持ち方だろうと訴えました。○入学段階での早い時期に大学進学や勉強に対する意識づけ・動機づけをし、生徒に安心感と学習意欲を与えることの大切さ、○また従来型の『補習』ではほとんど効果は期待できないことから、『補習』のやり方を180度転換すること。すなわち目に見えた形で『実力の蓄え』を提示し、それに向かって生徒が自主的にそして継続的にやる『補習』こそが、生徒に真の実力と自信をもたらすこと。○実際は『やらされている』勉強を、生徒自身の方では『自分がやっている』という主体的な意識を抱かせることが重要であり、そのためにはどうすべきか、注意点とともにお伝えしたこと等でした。持参した手作りの資料をもとに70分間話し続け、最後に20分間の質疑応答の時間を設けましたが、先生方の熱心な質問が相次ぎ、質疑応答の時間が1時間にも及びました。私は質問を受けながら大変嬉しく思っていました。

時間が許せば、学校の先生方がそれぞれの教科において活躍できる場を設ける方法や、最近新鮮味が乏しくなってきた公立高校の塾長対象の学校説明会のやり方などについても言及したかったのですが、とても時間が足りませんでした。

34年間、妻と二人で積み上げてきた『塾教育』の経験と実績が、学校教育の場でもお役に立つことが出来れば幸甚です。学校と塾との垣根を取り除き、学校の先生と塾の先生とが手を携えて教え子の指導に当たることを、私は従来から望んでいます。その成功例もお話し

たしました。ですから今回、公立高校の先生方を前に話をさせていただく機会を与えていただいた杉尾校長先生と黒田先生には感謝しております。八尾高校で4～5年間その後奈良学園では7～8年校長先生をされた野村利夫先生は、親しくお付き合いをしていただき、私が尊敬している校長先生のお一人ですが、『同じ目的を持った教員が10人いれば、それは実現できる』とおっしゃっていたそうです。八尾高校は残念ながら『トップ10（進学指導特色校）』には選ばれませんでした。しかし、JリーグではJ1とJ2の入れ替えがありますように、もしトップ10にもそのような入れ替え制があるならば、その中に入れるだけの進学指導実績を有し、学校と家庭あるいは先生と生徒・保護者との『非常に身近で深い信頼関係』が他の高校に比べて群を抜いており、『学んでみたい高校』として生徒や保護者の心をつかむような『新生八尾高校』になっていただければと期待しています。陰ながら地元の高校を私は応援したいと思っています。



『教室だより』掲載のお許しを各先生方から得て、八尾高校からお送りいただきました写真です。私にとりましてはとても楽しく充実したひとときでした。

テーブルの真ん中あたりに並んでいますのは、教え子から提供してもらったルーズリーフノートや数学のカードなど、実際に使っていたものです。先生方は非常に興味を示されたご様子でした。



朝日新聞『今解き教室』

私の教室では従来から国語の指導に力を入れています。日本語を理解し、日本語で考え、日本語で表現できる力、いわゆる国語力は『5科目の要』だと考えているからです。国語を真面目に勉強している子は、日常生活においても思慮深くなり、反抗期を迎えても簡単に『キレル』ことも少ないように感じます。更に、高校受験や大学受験における小論文を書く時に力を発揮するだけではなく、大学や大学院で学ぶ際にもその論理的思考力がきっと役に立つ場面があるだろうと思います。PISA型教育を充実させようと思うならば、国語力を養成することです。

しかし、この読解力・思考力・表現力は中々身につけるのが難しく、成果が目立って目に見えるものではありません。多くの塾がその必要性を認識していても、漢字や語句の練習で終わっているのはそのためです。また、中々良い教材がないのも確かです。そのような折、妻のきよみが『これいいんじゃない!』と『今解き教室』の記事を見つけ、インターネットで詳しく内容を把握して、早速朝日新聞社に申込をいたしました。ところが、『今解き教室』は学校・大手塾対象で、50人からの契約とのこと、何度か責任者の村上さんに直接お電話をして交渉し、ようやく10人からの契約で使えることになりました。

4月22日(日)、『学習塾百年の歴史』出版報告会で上京した時、宿泊したホテルの目の前に朝日新聞本社がありました。機会があれば無理を聞いていただいたお礼などを申したいと思っていましたので、翌朝アポイントもないのにお邪魔しました。突然の訪問にも関わらず、ジュースをごちそうになりながら、『今解き教室』についての意見交換等をさせていただきました。詳しくは妻が以下に書いてくれていますが、『今解き教室』は私の知る限り最高の国語教材だと考えています。『学校では、校長先生がやる気でも、負担が大きいと言って中々一般教員の方で採用してもらえないんです』と村上さんが言われるように、指導者の指導力を試す教材でもあると思います。『関西では今解き教室を使っていたらいる個人塾は須原先生のところだけです』とも話しておられました。小学4年生から大学受験生まで、国語の指導はすべて妻が引き受けてくれています。

『国語教室』は私の教室の特徴を成す大きな柱の一つです。3年目を迎えた『今解き教室』の指導について、経験に基づく妻の感想をお読みいただければ幸いです。

本社ビル内にて村上剛さんと記念撮影⇒



『今解き教室』との出会いは2年半余り前、朝日新聞紙上の小さなお知らせコラムを目にした時でした。『これは画期的な教材!』と直感し、ぜひ使ってみたくて思いましたが、学校・大手塾を対象にしているとのこと。私どものような個人塾でも何とか使わせてもらえないものかと主人が直接朝日新聞本社の村上氏にお願いしたのが始まりです。

1年目は10名以上の申込条件をクリアするために希望者を募り、小6と中1生合同でようやく10名を集めてのスタートでした。急きょ月2回、2時間ずつの特別時間割を作って、テキストはL2

(当時は小学4・5年生対象のL1・小学6年から中学2年を対象としたL2の2種のみ)を使用しました。2年目以降は何名からでも申込可能となったのですが、結果的には公立中3生7名私立中3生4名の計11名で、従来からの『国語教室』の時間に組み入れて行いました。テキストはL3(L3はこの年度だけの製作でしたが、記述問題が豊富でとても良いものでした)を使用し、高校入試対策の一環としても役に立ちました。3年目となる今年は8名で、同じく中3の『国語教室』の教材として使っていますが、残念ながらL3はなくなったため代わりに新たに作られたL2発展編を使用しています。

朝日新聞社による『今解き教室』の紹介として「朝日新聞に掲載した記事や写真、図表などを活用して、現代社会が抱える問題について考える新しい総合教材…中略…将来社会で求められる『生きる力』を身に付けることができる」とあります。その意図にどこまで近づけているかわかりませんが、発行当初から実際に使ってみての感想をいくつか述べてみたいと思います。

まず『今解き教室』の他教材との決定的な違いは、『現在の社会』の様々な事象が、歴史的な背景や未来への展望も含めて、わかりやすく解説されている点にあります。上記紹介文にあるように、実際に掲載された写真や記事など新聞の特性を活かした教材だと思います。『自然・環境』『生活・社会』『政治・経済』『科学・技術』という4つのジャンルから毎月一つ、例えば『地球温暖化』『日米関係』『宇宙開発』『少子高齢化』『裁判員裁判制度』など今現在の多様なテーマが取り上げられています。その中には『ゴミの分別』『インフルエンザ対策』『食卓のマグロ』など生徒たちの身近な話題も沢山あり、自身の現実の問題として向き合うこととなります。こうして生徒たちは現在の社会の姿を学ぶことによって、他ならぬ**自分の問題としてとらえる能動的姿勢**を身につけ、**興味・関心の幅を多方面へ広げる**ことにつながっていく、と感じます。これは生徒のみならず私自身も実感するところで、授業準備のためにテキストを読んでいて、『こんな見方もあるのだな』とか『最近よく耳にするがこういうことだったのか…』などと学ぶことも多く、毎回新しい発見を楽しみにしています。授業の場でも、私の経験などを織りませながら生徒と一緒に読み解いていくように心掛けています。

そして、こうした特徴を支えているものの一つがデータの豊富さです。テキストには様々な形態の図表・グラフ・統計等の資料が数多く掲載されています。右図のようなわかりやすい図解・それに続く詳しい解説に加えて、豊富なデータ類がより理解を深めてくれます。また、現代社会では日常生活においても様々なデータ処理能力が求められます。そのため授業においても、データの正しい読み取りができるように特に留意しています。



さらに、身近な話題から始まり、地域社会⇒日本⇒世界へと視点を移し、データを世界地図上で図示して世界と日本の関わり合いに目を向けるコーナーもあります。テキスト全体を通して**世界的な広い視野が重視**されている点も見逃せません。これは今後更なるグローバルな世界を生きてゆく子ども達にとって欠くことのできない視点です。こうした教材を通して、世界に目を向ける態度が根付いていくことは大きな意味を持つと思います。その他、新聞記事を読むことで語彙力・読解力がつく点、要点をまとめたり、自分の考えを述べたりする作文力がつく点など利点は数多くあります。

先日お会いした村上氏が、お話の中で『今年の東京の某中高一貫公立校の入試問題に「都市鉱山」についての作文が出題され、「今解き」で学んでいた生徒が、模擬テストの結果からは合格が危ぶまれていたにもかかわらず見事合格した』とおっしゃられていましたが、私も『なるほど、十分考えられることだなあ』と納得しておりました。話を伺いしながら、私の教室の生徒がもし同じ立場ならばきっとしっかり書いていただろうと生徒たちの顔を思い浮かべていました。現に昨年度、積極的に学習に取り組んでいた生徒は国語力・作文力がぐんとアップしました。その中でも天王寺高校文理学科に合格した富井択音君は回を重ねることによく論点を把握できるようになり、数多くの300字前後の記述をきちんとやりこなすことで大いに実力をつけてくれました。とても嬉しいことでした。

さて、一方、生徒たちの応用力のなさを痛感する場面にも度々出くわします。言うまでもなく、一つの事象には教科で言えば、社会的・理科的・数学的側面が存在します。そのため『今解き教室』の問題は科目横断的なものが多いのですが、理科的・社会的分野に関しては割合スムーズに対応できるのに、数学(算数)が関わってくると様子が一変します。

数学力なくして今日の経済学が成り立たないのと同様に、様々な事象を正しく捉える上で数学的な物の考え方は不可欠です。『今解き教室』ではデータから読み取った数字を比較して関連を考えたり、割合や比を使って社会の動きをと



らえたり、と各所に計算問題が組み込まれています。扱う数字自体は単純で計算式も平易なものばかりなので、単に計算問題として出題されれば難なく解けるのに、記事中の文章やデータから題意に合う必要な数字を読み取って自分で計算式を立てて……となると、これが中々出来ないのです。『教科の知識』が『実生活』と結びついていない良い例だと言えます。PISAの試験で結果が思わしくないこともうなずけるのです。

以前からもこうした傾向が懸念され、そのため『総合的学習』が注目されてきました。最近では大学においても、文系・理系の枠を外した学部・学科・授業が行われつつあることも周知のことです。『ゆとり教育』の下で行われた『総合的学習の時間』は、方向性は良かったものの余りにも準備不足のスタートでした。ほとんどの学校では適当にお茶を濁しただけの実りのないものに終わった、というのが現実です。



けれども前号第125号教室だより『PISA型教育への警鐘』でも触れていますように、『ゆとり教育』のあの時期に『今解き教室』のような素晴らしい教材があれば、現場の先生方にとっても、生徒たちにとっても、どんなに有益であったらうと思うと残念でなりません。今からでも学校現場に取り入れて欲しいものだと思います。

『今解き教室』は中身の濃いテキストに加えて電子教材までを合わせると、かなりの量になります。中3生対象といえども、月2回1回1時間半ずつの限られた時間では到底全てをこなすことはできません。そこで、生徒諸君には事前にしっかり読んで問題をやってもらい、授業においては『これだけは』というポイントを中心に解説を加え、問題をピックアップして一緒に考えてゆく、という方法をとっています。このような指導を可能にしているのは、日頃から『自分の勉強』を大切にする態度が生徒諸君に身につけているからこそだと自負しています。こうして共に学ぶ中で、前述したように、興味や関心の幅を広げ、問題に対する能動的姿勢を身につけ、世界的な広い視野を持った生徒に育つための一助を荷うことが出来ればと願っています。

5月5日子どもの日に『まなあさ(まなぶ@朝日新聞)』に教育総合センターの特集記事が掲載されていました。名刺交換をしました長谷川智センター長、いつも親切な電話対応をしていただき今回は本社編集部を案内して下さった鈴木真由美さん、今解き教室でお世話になっている村上剛さん等、存じている方の記事はいつもより身近なものに感じました。その切り抜きです。

いまを学ぶ



朝日新聞 教育総合センター発足

人は、学び続けます。「色々な学びを、私たちに楽しく応援したい」。朝日新聞社は3月、そう願って「教育総合センター」をつくりました。私たちの応援の形を、ここにご紹介します。



ニュースがわからん!

教育総合センターって何するの?



記事を生かし、若者の学びを応援するよ



長谷川智 教育総合センター長

コック郎 新しいまなぶ 教育総合センターは、何をやる組織なの?
 A 涙米を担う若い人たちの「学び」を、私たちの記事や知恵を生かして応援しようと思ってるんだ。
 コック郎 この日の今日、この特集を届けたのも、それが理由なんだよ。
 A どんな応援?
 A 学びの土台になる「こほり」を測る「語彙・読解力検定」をしつつ、新聞記事を使って時事問題が学べる教材や「天声人語書き写しシート」を作ったりしているんだ。記者が学校で授業をする「新聞出前授業」や「本の作家(オーサー)が学校を訪れて授業する「オーサー・レクチャー」就職フェアや教育関連の講演会も開いているよ。
 コ 新聞って、勉強に役立つかないよ。
 A 新聞には色々な人の意見や、数字データが載っているから、それらをも自分で読んでみることで、自然に力がつくよ。学習指導要領で新聞の活用がうたわれているのよ、そのためのんだ。グローバル化した社会では通用しない。「コミュニケーション力や問題解決力が問われるんだ。国別のランキングが話題になる国際的な学力テスト「PIEAS」が問う読解力もそのひとつだよ。
 コ 元々、教育と新聞はなじみがあって、例えば米国のワシントン・ポストは、教育事業にとても力を入れているよ。
 コ ねん、日本の若者は、どんな状況に置かれているのよ。
 A 少子高齢化で、若者よりも高齢者の問題の方が関心を集めているようだね。でも、次の時代を担うのは若い人たちのなかだから、もっと応援していかないと、社会には、正解のない課題が多い、それらを解決していくには、しなやかな頭と意欲なの。
 A 私たちの取り組み全体の要諦は、朝日新聞で皆さんの学びに役立ててもらいたいという願いを込めています。ウェブでも情報発信しているのよ、「まなあさ」で検索しよう。
 コ なるほど。ところで「まなあさ」ってどういう意味なの?
 A 私と同じ記者出身者のほか本の編集者、販売や広告の営業担当者、デジタルメディア経験者など、色々なキャリアと個性をもった社員が、40人ほど集まっているんだ。
 コ どうなスタンプが働いているの?
 A 私と同じ記者出身者のほか本の編集者、販売や広告の営業担当者、デジタルメディア経験者など、色々なキャリアと個性をもった社員が、40人ほど集まっているんだ。
 コ なるほど。ところで「まなあさ」ってどういう意味なの?
 A 私たちの取り組み全体の要諦は、朝日新聞で皆さんの学びに役立ててもらいたいという願いを込めています。ウェブでも情報発信しているのよ、「まなあさ」で検索しよう。

2012・5・5

■ご意見や、ご提案をお待ちしています。mana-asa@asahi.com

e学び力

十朝日新聞時事ワークシート

(鈴木真由美企画担当(次長))

最近、大学で重視されている初年次教育やキャリア教育のために、朝日新聞記事を活用した「生きた教材」を提供しています。「e学び力」は、大学入学前に基礎的な学習技術を学んだり、就職に必要な力を身につけたりするためのeラーニング教材です。一方の「朝日新聞時事ワークシート」は、時事問題をテーマに学習する教材です。社説や天声人語のほか、幅広い分野の記事を使って、ニュースの読み解きや漢字の読み書きに取り組みます。そうした学習が、社会に関心を持つきっかけにもなります。ゼミや講義での活用をお勧めです。



今解き教室

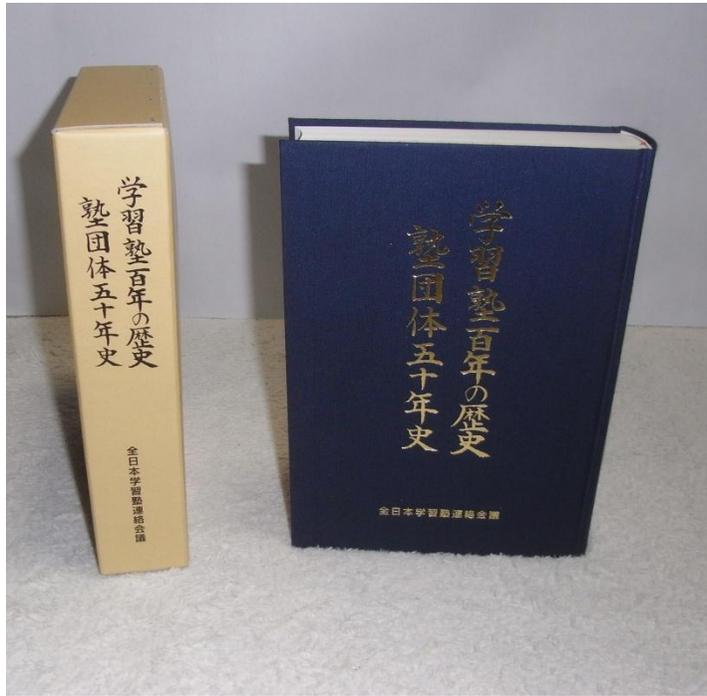
(村上新ダイレクター)

朝日新聞の記事や写真をふんだんに使い、現代社会が抱える様々な問題について考える総合教材です。学校や塾を通じて、小学校4年生から中高生までが利用しています。

特徴は、ニュースを題材に論理的な思考に基づいて自分の意見を記述するPIESA型学習という点です。それらは「自分で工夫して問題を解決する力」の向上に役立ち、子どもたちが将来社会で求められる「生きる力」につながります。

実社会の動きをとらえながら、読解力、思考力、記述力、こほりといった学力を磨く一方で、社会常識や生命の尊厳なども学べます。ただ今、有料モニターを募集中です。

『学習塾百年の歴史』発刊



この度、立案から6年余りの歳月を経て『学習塾百年の歴史—塾団体五十年史—』が完成いたしました。『記念誌』ではなくて『記録』として残す『歴史書』です。全国の学習塾の団体の上に『全日本学習塾連絡会議』を設置し、この会の下に埼玉県調布学園塾長佐藤勇治先生が編集長となり、全国24人の編集委員の手によるものです。大学の先生、私立・公立の学校の先生、塾の先生、教育関連企業の方々等、教育界挙げての協力によるものです。当初450頁の予定が1170頁に増え校正に予想以上の時間がかかったこと、東日本大震災により東北地方の塾の先生方の原稿が予定通りに集まらなかったことなどの影響で、発刊が半年ほど遅れましたが、様々なデータや貴重な学術論文等も含まれています。国立国会図書館を始め、全国多数の図書館に寄贈されます。

毎回東京で開かれる編集委員会には中々参加が叶わず、とても真面目な編集委員とは言えませんでした。第10回目にして初めて出席した私は、自分が近畿地方の編集委員では唯一人であることを知りました。我が身を反省し、編集長の要望に沿って、灘・東大寺・府立北野の各校長先生と、五ツ木書房への原稿依頼等に参りましたが、いずれの方も寄稿を快諾していただきありがたいことでした。

多くの塾の先生方の寄稿がありますが、何の役職も引き受けたことがなく、まったくの個人の立場で書いているのは私くらいかもしれません。『ユニークな個人塾』として、塾の世界では認められたのかなと嬉しく思っています。

以下に目次の冒頭部分と私の原稿を載せます。24ページから戻ってお読み下さい。

そして、保護者の要望が強かった小学生の指導にも乗り出しました。

そもそも塾の始まりは、家庭教育における親がわが子の勉強を見ることを、家庭教師のように自分以外の人に委ねたところからではないでしょうか。やがてそれが、受験や補習といった専門的な塾に分化していき、個人塾の中から組織化された中堅・大手塾へと発展していったのではないかと思います。核家族化や夫婦共稼ぎ等といった社会の変化から、本来家庭教育の範囲であるものが学校や塾に期待されるに至ったように思います。

私の子供の頃には、年寄りや親戚のおじさん・おばさんに当たる人が、たいていどの家庭にも同居していたりして身近にいたように思います。また近所付き合いも親密で、よその子に対しても遠慮なく注意をしたり・誉めたり・励ましたりしてくれていました。そういう人の存在があったからこそ、反抗期に入った子と親の関係も修復されたりして、子育てがうまくいったのではないのでしょうか。私は子育てには親だけでは不十分で、親子以外に第三者の存在が必要だと考えています。しかし、現在ではそのような第三者の存在が希薄になったか、あっても逆に迷惑がられて、うっかり注意をしようものなら、余計な世話を焼かないでくれと叱られる風潮すら

あります。社会で子どもを育てるといっても、信頼関係のないところでの子育ては難しいし、更にその信頼関係を築くには一朝一夕にはできないことでしょう。ではその第三者になり得る者となると、現代では学校や塾の先生ではないかと私は考えています。ただ、今の学校の先生にそれを求めるのは現実的でないかも知れません。やはり、『塾』特に個人塾の先生こそが、その第三者としてふさわしく、むしろ積極的にその第三者の役割を引き受けるべきではないかと考えています。これからの塾は、教えることばかりではなく、子供を育てることに重点を置かなくてはならないと思います。

最近では、学校で紹介されたといつて私の教室に入塾して来る生徒がいたり、学校や塾の先生が教室の授業参観に来られたりするようになりました。私は、学校と塾との垣根を外し、塾と学校が親しく連携できるようになればと思っています。教育に携わる者同士、塾の先生と学校の先生とが信頼関係が結ばれ、指導法や使用している教材やあるいは共通の教え子についての情報交換がなされれば、より素晴らしい教育環境が生まれるものと考えています。そしてこれまでの『家庭教育』『学校教育』『社会教育』の範疇には無かった、新しい『塾教育』というカテゴリーが社

会で認知される時代が来るようになって欲しいと願っています。

『学習塾百年の歴史』は1冊実費7500円掛っているそうです。非売品ですので、1口5000円のご寄付で1冊進呈しています。一部の私立校の校長先生にはそのご案内を差し上げ、ご寄付をしていただきましたことをお礼申し上げます。

尚、本ご希望の方は埼玉県調布学園編集長佐藤勇治先生のところにお申込み下さい。お申込み・お問い合わせは以下のところ です。

Tel 042-482-1481 Fax 042-483-1618

self-evaluation 自己評価をうながす、特にゆっくりと落ち着いた声の調子で質問することが重要。P II 過去のことを問わず、現在から将来に向けての問題解決の方法を計画する) ④脅したり罰したりしないで、問題があれば話し合って解決する⑤上質の教育とは自己評価を通して達成される教育、というものです。グラッサーは『行動のほとんどは自分の選択なのだ、人間は内側から動機付けられる』と言うことを強調します。内的コントロール心理学といわれ、これを学校教育へ適用したものがクオリティ・スクールと呼ばれているのだそうです。

私は生徒諸君とよく次のような話をしていました。『例えば大好きな高級ビーフステーキが目の前に出されても、心配事があつたり、お腹が痛かつたり、もうすでに満腹であつたらどうだろう？あまり食べる気はしないし、食べたところで多分おいしくもないだろう。しかし逆に、なぜか心がワクワクしていたり、お腹がペコペコだったりしたら、たとえ粗末なおかずのお茶漬けでもおいしいと思えるのではないかい？勉強も同じだ。嫌々受身の勉強をしていたのでは、簡単な計算問題だってミスをするかも知れない。同じ勉強をするのなら、できる限り楽しい工夫を凝らして集中してやれば、時間も短く感じるし難しいと思

えた問題でも気がついたら解けている場合もあるだろう。解けた時の喜びは何物にも代えがたい経験になって、また解いてみようと思毒になるかも知れないよ。これはお金では買えなくて、努力した人しか味わうことが出来ない宝物なんだ！』いつもゆっくり楽しく話しかけます。生徒諸君は勉強の時よりも目を輝かせて、笑顔で聞いてくれます。決して強制はしません。勉強方法を提示して、アドバイスをするときでも、もちろん強制はしません。悩み事の相談を受けた時には、それまでの過去のことよりも、これから先、君はどうしたいのかと尋ねて、二人で最良の方法を見つける努力をしています。

私はこの本に出会うまでグラッサーの選択理論の存在すら知りませんでした。しかし、その存在を知らないままに、妻とともに実践してきたこのような指導の姿勢は、グラッサーがいう『上質の条件』と重なるところが多かつたと思います。アメリカのクオリティ・スクールが大いなる成果を發揮しているとのことですが、私には実感として容易にそのことは想像できるのです。私の教室のこれまでの指導に理論的裏づけがなされた思いがして、この本との出会いを実に嬉しく感じました。本来グラッサーの選択理論は、問題を抱えた子どもに対するものです。しかし、私の

経験からすると、その実践的な応用範囲は更に広がると思います。例えば、家庭においては反抗期を迎えた子を持つ親と子の関係に使用します。また学校や塾では、学習意欲を生み出し、自分から積極的に勉強と取り組む動機付けにおいて役に立つ考え方だと思えるのです。柿谷正期先生が書かれている『自分の人生の質を自ら評価し高める教育という視点』から、もう一度『家庭教育』・『学校教育』・『社会教育』を見直せば、人間性豊かで優秀な子が育つと確信しています。これから述べる『塾教育』にも、無くてはならない視点であると考えています。

八、『塾教育』

平成五年、私は小学校のPTA会長を引き受けました。学校教育の現場を自分の目で見て、すべての先生がそうであるとは言いませんが、指導力のない世間知らずの先生方が多いように感じられました。また保護者の方でも、当時はまだモンスターペアレンツというような人はいなかったようですが、『下駄箱PTA』といわれるように、いざとなると面と向かって自分の意見を言わない人が目立ちました。この経験をきっかけに、私は『塾』の必要性を痛感し、それ以後『塾』という言葉の使用をためらうことはなくなりました。

訴えておられました。私も全く同感です。大学や大学院で専門的な学問を学び、『真のエリート』になつてもらえるために、私は『真のエリートの卵』を一人でも多く生み出したいと思います。自分の頭で考え、自分の良心に従つて判断し、自分の行動には自分で責任を取る。そして自分の進むべき道は自分で切り開いて行ける子を育てたいと考えているのです。単に知識を伝え、『教』えることばかりではなく、そのような意識を持った大人に『育』てるために、保護者とともに手を携えて指導していきたくと考えて実践しています。妻と二人だけの小さな教室ですが、そのような『塾教育』を実践しているのだという気概だけは忘れないように、微力を尽くしています。塾にはいろいろあつていいと思つています。様々なレベルや指導法があつてこそ、塾たる所以であり、どの塾を選ぶかは保護者と生徒自身だと思ひます。そして私の教室は、この『塾教育』を根本においた塾であり、その理念に沿わない生徒を指導し、保護者の面倒を見るようなことはしたくありません。成績が悪いからといって退塾してもらつたことはありません。それはむしろ私の指導力不足を責めるべきでしょう。しかし、逆に如何に成績が良くても、不真面目な勉強態度の子や平気で嘘をつく生徒、あるいはわが子を塾任



授業中一息
2007年夏、思い出多い高校3年生たちとの授業の合間に…

せにする保護者の場合には、私の教室での学習をご遠慮いただいております。開塾以来一貫した姿勢です。

七、グラッサーの選択理論

それでは、学力の崩壊を食い止め、人間性豊かな『真のエリート』を育成するためにどうすれば良いのでしょうか。

二〇〇九年十月十一日(日) 社団法人全国学習塾協会主催の、第二十一回『塾の日フェスティバル』が尼崎のホテルで開催されました。第一部の式典に続き、第二部の討論会は、『学力が危ないー』「確かな学力と豊かな人間

性を求めてー」というテーマでした。京都大学経済研究所所長西村和雄教授が、『分数ができない大学生』から十年」と題し基調講演をされ、その後西村先生と灘中学校・高等学校校長和田孫博先生と、塾代表として私がパネリストになり、三人が『学力低下』についての討論会を行いました。

西村先生は教育に関する著作も多いのですが、私はパネルディスカッションの前に冊子を拝読しました。その中で特に興味を引いた本が『学力の土台』でした。西村和雄先生は一九七七年、アメリカから帰国された折、日本では校内暴力や家庭内暴力が社会問題になっていたことにショックを受けられ、この状況を何とかしなければならぬと猛烈に勉強されたとのことでした。そしてたどり着かれたのが、アドラー心理学による子育ての理論と、グラッサーによる問題を抱えた子どもにも効果的な選択理論だつたと書かれています。その本の第四章、柿谷正期先生の書かれているグラッサーの選択理論による教育の定義は、①教育は知識の修得ではなくて知識を使うこと②競争ではなくて協力すること③共同学習のすすめ④強制のない環境でこそ人は育つ⑤RWDEP(R=relation 関係)くり・W=want 願望を聞く・D=doing 現在の行動に焦点を合わせる・E=evaluation

く面倒を見てくれます。時折大学生になった卒業生が教室を訪ねて、後輩たちに大学の様子を教えてくれたりもします。学校や学年の枠を超えた、横のつながりばかりでなく縦のつながりもある、そして勉強ばかりでなく触れ合いの場もある私の教室は、他ではめったに見られない学習の場だと自負しています。学校ではクラブ活動くらいしか縦のつながりはないでしょう。また、学年を超えて他の学校の生徒と話す機会などはほとんどないと思います。私の教室には、このような素敵な学習環境が常に存在しているのです。私が『勉強しなさい』と生徒諸君に言わなくても、先輩の背中を見て育った子たちは、自分もその時になれば勉強に集中しなければならぬことが分かってくれていて、自然と『自分の勉強』に打ち込むようになるのです。

初めてT君の学年を大学に送り出してから、その実績を記録しています。二〇一〇年三月三十一日現在で、過去十四年間の大学進学実績は（合格実績ではありません）、『居候』諸君百十四名卒業生中、国立大学四十名、公立大学十二名、私立大学六十二名です。東京大学三名、京都大学六名、大阪大学十二名、神戸大学六名等の国立大学に難関私立大学を加えますと、八十%くらいがそれらの大学に進学しています。また、東大理Ⅲ・京大医学

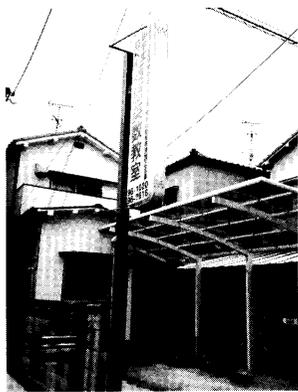
部など医学部医学科に一割強の十二名が進学しているのです。公立大学の大阪市立大学には九名進学していますが、その内五名が医学部医学科で、内二名は首席合格です。私の教室は受験塾ではありません。合格が目的ではなく、合格した大学でしっかりと勉強するという目的意識とそのための実力をつけるのが目標なのです。『学校の授業』と『自分の勉強』を大切にしたい、『居候』諸君たちの地味な努力の結果です。高校受験や中学受験では私と妻が直接指導しますが、大学受験と同様にレベルの高い進学実績を出せていると思います。

T君母子との出会いがなければ、私の教室のこのような展開はなかったと思います。今は二人にとっても感謝しています。T君は外科医として立派に活躍しており、学会に出たからと言っては北海道から蟹などを送ってくれます。塾の先生冥利に尽きる瞬間です。

六、エリート教育の必要性

日本では『エリート』と言えば、勉強は出来るが身勝手な心で冷たい人間として見られ、マイナスのイメージが強いと思います。しかし、そのような人間は本来『エリート』でもなんでもありません。今、資源が乏しい日本に必要なのは、人的資源としての『真の

エリート』です。ゆとり教育が始まろうとしていた二〇〇二年一月、東京大学安田講堂において、『大学の教育研究体制と運営システム』というテーマで公開討論会がなされました。一九八七年ノーベル生理学・医学賞受賞でMIT教授利根川進先生、加藤紘一衆議院議員、元東大先端科学技術研究センター教授立花隆先生、東大からは廣川信隆医学系研究科教授・黒田玲子総合文化研究科教授、司会は副学長の小間篤理学系研究科教授でした。このままでは大学院のレベルばかりでなく、大学のレベルにおいても頭脳の海外流出が起りかねない。優秀な人材の外国への流出は『教育の空洞化』を日本にもたらす。東大は国際社会に通じるリーダーたる『真のエリート』を養成すべきだ。『真のエリート』とは、国際社会の時代を担うリーダーとしての知力や行動力とともに、他者の痛みを知り、他者のために尽くせる心を持った人間である、と



教室全景
2000年5月にこの教室に移転、現在に至る

思います。東大寺学園は、近畿地方では灘校に次ぐレベルの高い、六年間一貫教育の男子校です。それまで公立中学生とその卒業生に当たる高校生を指導していて、私立の、しかもそのような超優秀な私立生を引き受けたこととはありませんでしたので、私はお断りしました。しかし、T君とお母さんはその後も三度か四度私のところに来られ、『中学生になったら須原先生のところへ勉強すると決めているんです!』と話されますので、仕方なくお引き受けいたしました。でも、現実に公立中学生と一緒に指導は出来ず、そこで初めて新聞広告を出すことにしました。その結果、二年生二人が加わり、開塾当初の再現のように、生徒三人で一つの座卓を囲み、へき地の分校のような指導が始まりました。

T君は東大寺学園を六点補欠で合格したそうです。それならば、一年生で学年平均並みを、二年生で三分の一以内を、三年生で学年の一分以内の成績を目指そうと、私と二人で目標を立てて勉強を始めました。努力の甲斐あって、中学二年生の二学期には学年百八十人ほどの中で二番くらいにまで成績が向上しました。特に数学の良くてきた子でした。その評判を耳にしたT君の小学校時代の中学受験仲間たちが、私の教室で学ぶようになっていました。以前から高校生の面倒を見ていま

したが、中学時代の教え子たちへのアフターサービスのようなもので、私のボランティアによる高校二年生夏休みまでの指導で終わっていました。大学受験まで本格的に指導したのはT君の学年が初めてで、その時には六人になっていました。その六人は、浪人をした子もいましたが全員国立大学（京都大学医学部・三重大学医学部・岡山大学医学部・大阪大学文学部と基礎工学部・京都大学農学部）へと進みました。T君は京都大学医学部を受験しましたが、得意な数学での失敗がひびき、後期三重大学医学部に進むことになったのです。

五、理想的な学習環境

大学受験まで面倒をみるようになったT君の学年からは、高校二年生九月以降は費用をいただくが、愛すべき『居候』と呼びながら指導をしています。『指導』といっても私はほとんど何もすることが無く、生徒諸君は自分の好きな勉強をしているだけです。卒業生たちからは『自習教室』だと言われていますが、私はそれでいいと思っています。『どのような勉強をしても自由』ということも簡単で楽なように聞こえますが、実はレベルの高い勉強方法だと思っています。『何を勉強しているのか分からない』レベルの子にとって

は難しいことだからです。一見無責任でほったらかしのように思えますが、そうではありません。京都大学の教育基本理念である『放牧』は、『野生』とは違うのです。私の教室でも、相談に乗ったりアドバイスをしたりしています。ただ、優秀な生徒ほどあまりこちらからは手を焼かない方がよいのです。わからないことが出来たとき、悩み事が生じたとき、困ったことになったとき、『いざというその時には須原先生がいてくれる』という安心感が生徒を『自分の勉強』に集中させ、そのことが家庭環境における保護者と生徒の関係を安定させることが出来るのだと考えています。生徒諸君や保護者にとって、私の教室は保険みたいな存在かもしれません。

『平成の寺子屋』と言われる所以は、奈良の木匠家に特注した一人用の文机に向かつて勉強しているからでしょう。創塾以来続いているスタイルですが、畳にどっかりと腰を据え、生徒と同じ目線で指導ができます。教室での学習曜日や時間も、ある程度生徒の自由になっていますので、体の大きな高校生や私立中学生の中に混じって、自習にやってきた中学受験の小さな小学生が隣合わせで勉強している姿は、実にほほえましいものがあります。先輩が後輩の質問に答えたり、学校や文化祭、クラブ活動などの様子を話し合ったりしてよ

になるように勧めてくれ、自分が中学時代に通っていた塾の先生のところ连接到れて行ってくれました。それが『塾』との初めての関わりで、その塾とは当時超有名な『入江塾』でした。

一九六〇年に伸学社（通称入江塾）は設立され、灘中学校への合格者が非常に多く、毎年入学試験シーズンになると、テレビのニュースに入江先生の映像が流れていました。先生は多忙で、『五分くらいしか話は出れないよ』とその友人に聞かされていましたが、私を気に入って下さったのか二時間近くも話をされて、『法律の勉強なんかやめて、十年間ここで頑張ってくれたら、このビルを君に任せる』とまで言っていました。しかし、『勉強は自分でやるものだ』という考えが私の頭にはあり、友人の気持ちに慮えて出かけては来たものの、塾の先生になるつもりはないと、その頃は思っていました。更に決定的だったのは、その友人を指さして、『こいつは馬鹿だから高津に行つたんだ』と先生は私に話されました。入江先生とその友人は師弟関係だからそれでもいいと思います。が、ベビーブームの中で、私は相当努力をしてようやく合格できた母校を、そのように考えておられる先生の下で働くことは出来ないなど考え、丁重にお断りいたしました。先生

の頭には中学・高校は兵庫県の灘か鹿児島県のラサールしかなく、大学は東大しかなかったように感じたことを今でも覚えています。昭和四十年前後の頃は、東大合格実績で有名な私立校はその二校くらいで、特に大阪では府立高校の方のレベルが高く、お金持ちの『ぼんぼん』か『お嬢さん』が情操教育のために私立校に行くか、公立校の勉強について行けない子が私立校に進学するのが一般的だったと思います。

入江先生の指導に対する情熱はすごく、生徒を引き付けるものを持っておられると私も感じました。しかし同時に、このやり方ではやがて行き詰まりを迎えられるのではないかとこの思いも、私は抱きました。図らずも一九八六年に、朝日新聞に『入江塾閉鎖』の記事が掲載され、先生の顔写真とコメントも載せられていました。脳梗塞のご病気もされたようですが、そのコメントの中にあつた『おなしさを感じた』という先生の言葉が、私の脳裏に残っています。

その後は、入江塾と同じ頃兵庫県尼崎に設立された『浜学園』が有名になり、テレビでは前田卓郎学園長の顔が頻繁に見られるようになりました。一九九二年、前田学園長は浜学園から『希学園』を独立させましたが、裁判にもなっていたのでよく知られていること

と思います。二〇〇四年に希学園は東京へ進出し、またこの頃から、関西では中学受験において中堅塾の台頭が始まり出したように思います。

四、私立生の指導を始める

話を私の教室に戻します。私が妻とともに、三十二年間一貫して指導していることは、生徒諸君に『学校の授業』と『自分の勉強』を大切にさせることです。そしてその『自分の勉強』を学習面ばかりでなく、精神面においても支えていこうとするものです。ですから特別な勉強を指導しているわけでもなく、教科書を中心にして生徒諸君が分かる勉強を心掛けています。この基本的指導方針が特に威力を発揮しているのが、高校生や私立中学生のクラスです。高校や私立中学校は、学校のレベルも違えば使用しているテキストも違い、進み方や教え方も違っています。地元八尾市の公立中学生を指導するような、一斉授業では指導ができません。そこで冒頭でも触れましたが、京都大学の『放し飼いの』方式を倣って、生徒諸君には自由な勉強をさせています。このような転機を与えてくれたのは、奈良県の私立中学校東大寺学園一年生のT君の出現でした。

開塾して十二年か十三年ほど経っていたと

私の中学・高校時代を振り返る時、知識を詰め込んでいくからと言って、それがゆとりのないことに結びついたとは思えないし、むしろ夜遅くまで勉強に没頭していたその時の経験が、今の自分を支えてくれている面があると思います。そもそも『ゆとり』とは上から与えられるものではなく、個人個人が自ら見つけ感じ取れるものでしょう。十歳から二十歳あるいは二十五歳くらいまでの十年から十五年の間は、その後の自分の人生を有意義に生きるために、出来る限り多くの知識を身につけ、記憶力・思考力・表現力を磨くべき時期だと考えています。そしてそのことを、折に触れてわが子に話し教え子たちに伝えてきました。

先にも少し触れましたが、私は子供たちと一緒に遊んだり食事をしたりすることが好きです。ですから、その延長上に教室における学習指導が存在しているような感覚です。定期試験等が終わった時には、トランプに興じたり、レンタルビデオを借りてきて映画を見たり、バッテリーセンターやボーリング場に出かけたり、お寿司や中華料理を食べに行ったりと、授業より忙しくくらいです。実際、実によく遊んでいると思います。そして、私は勉強を『氷山』に例えて、教え子たちに次のような話をよくします。『この教室で週

二回、一回二時間程度勉強して、どれくらい実力がつくと思う？正直なところ、僕はあまりつかないと思うよ。教室での勉強は、氷山の海面から出ている一割の部分だ。それよりは、君たちが家でしっかりと勉強したらどうだろうか。それは、氷山の海面下にある九割の部分に相当する。そして、親というものは、自分の目の前で勉強しているわが子を見れば安心するんだ。須原先生のところに通い出して、良く勉強するようになったと喜ぶ。家でしっかりと勉強する子は必ず成績が上がる。これまで一人の例外もない。だから教室で遊んでいても、親は文句を言わない。僕はお月謝を頂いて、君らと一緒に楽しく遊んでいればいい。君らもこの教室で何の遠慮もなく思い切り遊べるだろう。三方丸く収まるじゃないか。逆に、君たちは教室で熱心に勉強しているのに、家ではテレビを見たり、漫画の本を読んだり、ゲームに夢中になっていて、自分の机に向わなければどうだろう？恐らく成績の向上はそう望めない。親は月謝を払っているのに成績が上がらないから、そんな塾はやめてしまえ！って言うだろう。僕は一生懸命教えているのに報われない。君たちも僕や親から文句を言われる。全くの悪循環じゃないかい？さあ、君たちはどっちを選ぶ？』生徒諸君は、笑いながらもなるほどといった

顔をして、よく話を聞いてくれます。如何に勉強に対するやる気を起こさせられるか、動機づけがポイントなのです。親が勉強しなさいと言わなくても、生徒自らが自分の勉強机に向かうようになれば、私は月謝の80%は頂いていいのではないかと考えています。生徒諸君の勉強意欲を起こさせられるように、そして生徒諸君や保護者との信頼関係を築くことができるように、私は様々な工夫をして話しかけます。授業で生徒を指導している時間よりも、話しかけている時間の方が長いかも知れません。生徒の方でも、勉強よりも私の話を期待してくれている節があるようにも思います。

三、その頃の有名塾

ここで少し話題を転じて、私が『塾』に対して抱いていたイメージについて書いてみます。開塾の二年ほど前でしたか、その頃私は新幹線の回数券をいただき、大阪から岡山まで毎週家庭教師に通っていました。戦争で焼けなくて、とても大きな家に住んでいる中学生を教えていたのです。土曜日から泊まりがけでその御宅を訪問し、土曜・月曜に岡山大学大学院で聴講生として、恩師に法律のご指導を受けておりました。そのような私を心配してくれた高校時代の友人N君が、塾の先生

うです。私はこれまで京都大学の教育基本理念であり、母校大阪府立高津高校の『自由と創造』の源でもある、自学自習を中心とした、塾生たちの『真のエリート』の育成を目指し、講師を雇わず、妻と二人で指導を続けてきました。『ユニークな個人塾としての、須原英数教室について書いていただきたい』と言われる佐藤先生のご要望に沿って、この三十二年間を振りかえってみます。

二、須原英数教室誕生と私

一九七九年四月、『中学生・高校生 須原英数教室』が産声を上げました。脳出血で倒れた父の面倒をみるために、結婚と同時に開いたものでした。近所の公立中学生を数名、ほとんど自然発生的に生まれた教室でした。私は三十歳、大学での勉強に未練を残しつつ、座卓を囲んで三・四人を二時間、英語と数学を週二日指導していました。当時はすでに『乱塾時代』と言われ、近所にも多くの個人塾がありました。一年ほど過ぎたある朝、玄関を出ますとお母さんが十人ほど並んでおられました。『須原先生の塾は一クラス五人以上お引き受けられないし、欠員が無い限り途中入塾は出来ないし、来年度の募集が今日からだとお聞きして並んでいます』とのこと、嬉しいやら恥ずかしいやらで、急いで家の中

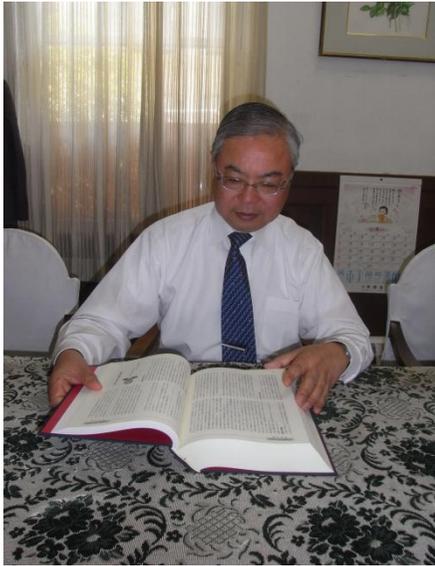
に入っていたきました。結局日曜日以外毎日教えざるを得なくなりました。

学校でのわが子の成績向上を願って、良い塾を他の保護者には教えないという『塾隠し』という言葉がありました。その言葉が嘘のように、口コミでどんどん生徒は増え続けました。開塾して三年後、父が亡くなりました。折に、このまま塾を続けるべきか、閉塾して大学に戻るべきか悩んでいました。通夜の席に制服姿の教え子たちがやって来て、普段はやんちゃな連中が神妙な顔をして『先生、大丈夫か？お父さんが死んだんやろ？』と話しかけてきます。根っから子供が好きで、高校生や大学生の時に、近所の小さい子たちを駄菓子屋に連れて行き、お菓子やアイスクリーム等をよく買ってやっていた私です。そのような教え子たちの姿に、『塾の先生の仕事もいいなあ…』と考え、続けられるまで頑張ってみようと思心しました。大学の恩師に相談に参りましたら、快く賛成していただきました。妻も私の決断を大いに喜んでくれました。

私は大阪府立天王寺中学校出身です。戦後のベビーブームの世代で、一年生の私の学年は十六クラス、二年生は二十クラス、三年生は十七クラスありました。一クラス五十五名前後いて、どの学年も千人前後いたと思います。天中は、どちらかといえればスパルタ教育

で詰め込み式の学校でした。『四当五落』（四時間の睡眠で頑張ると勉強すれば合格できるが、五時間も寝ていると落ちる）という先生の言葉を素直に信じて、毎晩夜遅くまで勉強をしていたのを覚えています。『受験戦争』という言葉が生まれたのは、私の一つ上の学年が高校受験する時でした。小学校時代は自立たなかつた私ですが、勉強すればするほど次第に実力をつけることができ、成績を伸ばしていく自分自身を嬉しく、誇らしく思っていたように思います。そして、念願の大阪府立高津高校に入学することが出来ました。天中とは対照的で、大正デモクラシーの時代に生まれた高津高校は『自由と創造』を旨とする高校でした。私は糸の切れた風のように、その自由と創造を謳歌しました。もしタイムトンネルがあつて、好きな時代に戻れるのなら、私は高津高校の三年間に戻ってほしいと思つています。この三年間で、『勉強は自分でやるものだ』という考えがわが身に沁み付いたようです。ですから、『塾』という言葉が持つイメージに、『受身の勉強』とか『受験塾』というものがどうしても結びつき、私は『塾』という言葉の使用に抵抗感がありました。そこで、『須原塾』ではなく須原英数『教室』として出発したのです。

この十年『ゆとり教育』の時代でしたが、



『学習塾百年の歴史』に寄稿していただきましたので、本を持参してお礼に出向きました。その折、記念に『お写真を』とお願いいたしました。

左が灘中学校・高等学校校長 和田孫博先生、右が東大寺学園中学校・高等学校校長 矢和多忠一先生です。どうもありがとうございました。

第十二節 学習塾の原風景



大阪府八尾市
須原英数教室 塾長

須原 秀和

一、はじめに

授業中、一本の電話が入りました。それが調布学園、佐藤勇治先生との出会いでした。『学習塾百年の歴史―塾団体五十年史―』編纂の編集委員就任と『学習塾の原風景』と題しての原稿の依頼でした。今から二年近く前のことです。私は、全国学習塾協会と関西私塾教育連盟の二つの団体に加盟はしていますが、何の役職も引き受けていない旨を伝え、一度はお断りいたしました。しかし、個人の立場としては是非二つを引き受けて欲しいと説得を受け、光栄なことと考え直して、引き受けることにいたしました。『平成の寺子屋』『エリート育成塾』『個人塾から東大へ』『学習塾の原点』などと、私の教室についての記事が月刊私塾界や塾ジャーナルに何度か掲載されていたのが、佐藤先生の目に止まっていたよ

第四部

第一章 全国のおよび広域で特色ある教育事業を展開する大手塾・上場企業塾

第七節	戦後の学習塾の存在意義と今後の展望	濱塾塾長	濱	417
第八節	個別複式授業について	音羽塾塾長	田中	419
第九節	塾の社会的地位の向上のための戦い	エミール学院塾長	大沢	422
第十節	「知識への探求、科学する心」を育てる	厚木ゼミナル塾長	西畑	426
第十一節	官僚と議員と学習塾	ESC 啓進館主宰	松田	429
第十二節	学習塾の原風景	須原英数教室塾長	須原	433
第十三節	藤原学園実験教育研究所を創設した父・藤原信の業績	藤原学園実験教育研究所学園長	藤原	441
第十四節	吉田松陰の教育	学習共同体グループ総塾長	河浜	443

第二章 全国および広域で特色ある教育事業を展開する大手塾・上場企業塾

第一節	教育力こそ国力。社会に世界に貢献する人材育成に全力。	株式会社ナガセ代表取締役社長	永瀬	449
第二節	PROVIDA (学び、未来を変えよう。)	栄光ゼミナル広報室長	横田	453
第三節	「最高の教育」を目指して	株式会社さなる代表	佐藤	456
第四節	地球サイズの人づくりをめざす「教育運動体」	ティエラグループ代表	増澤	461
第五節	教育で日本を再生し、国を富ませよう	株式会社名学館グループ代表	佐藤	465
第六節	めんどどうみ合格主義	株式会社市進ホールディングス会長	田代	469
第七節	中学受験予備校・日能研はナンバー1よりオンリーワンを目指す	株式会社日能研関東会長	小嶋	471
第八節	中萬学院の過去・現在そしてちよつと未来	株式会社中萬グループ代表取締役社長	中萬	474
第九節	学習塾百年の歴史―私塾団体五十年史に寄せて	e i s u g r o u p 代表	山本	477
第十節	学習塾百年の歴史―私塾団体五十年史に寄せて	株式会社京進代表取締役会長	立木	480
第十一節	がんばろう日本。フレッツフレッツこどもたち「五十年の歩み」と「百年への決意」	株式会社大成基代表取締役社長	佐々木	483
第十二節	創塾時代に自塾の原点を想う	株式会社成学社代表取締役社長	太田	487
第十三節	練成会グループ三十五年の小史	練成会グループ代表取締役会長	奥山	490
第十四節	塾生の成功の実現と地域の教育力向上を目指して	株式会社開倫塾塾長	林	494
第十五節	学習塾は「やはり野に置けレンゲ草」	株式会社ステップ代表取締役社長	龍井	498
第十六節	子どもたちに願うこと	田中学習会代表取締役社長	田中	501

第二部 学習塾百年の歴史 — 明治・大正・昭和（戦前・戦後）・平成の時代

第一章	学習塾の定義と分類	教育評論家	小宮山博仁	201
第二章	学習塾変遷の歴史と概観 最新の資料からみた塾業界の動向	P・Sコンサルタント代表	小林 弘典	217
第三章	学研小史と学研教室の展開から学習塾業界へ	学研塾ホールディングス代表取締役社長	鱈 洋之	239
第四章	塾の歴史七十年史 昭和と平成の時代	藤原学園実験教育研究所理事長	藤原 信	252
第五章	戦後の中学受験について	森上教育研究所所長	森上 展安	267
第六章	都立学校群と高校入試改革	城南学園理事長	矢野 克郎	274
第七章	戦後の塾の歴史と日本の教育の課題	教育評論家	小宮山博仁	280
第八章	日本における補完教育—塾について			
第九章	島本時習塾三代記	カナダ・プリティッシュ・コロンビア大学准教授	ジュリアン・ディルケス	318
第十章	アルバムとキャプションで綴る島本時習塾三代記	全国私塾連盟広報部長	加藤 実	334
		全国私塾連盟事務局長	佐藤 勇治	338

第三部 塾から学校を設立した先生方からの寄稿と全国でユニークな教育を実践している先生方からの提言

第一章	夢は必ず実現できる	片山学園中学校理事長	片山 浄見	347
第二章	教育の現場から見える二丁ズをつかむ	学校法人名進研学園 名進研小学校学园长	豊川 正弘	349
第三章	意志あるところ道は開ける!	湯梨浜学園湯梨浜中学校学园长	坂根 徹	352
第四章	学習塾から幼・小・中・高校経営へ	朝日学園幼・小・中・高等学校学园长	鳥海 十児	354
第五章	「生涯一塾長」非国民の息子と呼ばれて	土佐塾中学高等学校理事長	福島 清三	358
第六章	塾がつくった学校	池田学園小・中・高等学校学园长	池田 弘	362
第七章	予備校「尚学院」が生んだ「沖縄尚学高等学校・同附属中学校」	尚学学園沖縄尚学高等学校・中学校校長	名城政次郎	365
第八章	全国私立寮制学校協議会の活動	全国私立寮制学校協議会加盟校幹事	久野 光洋	369
第九章	ユニークな教育を実践している全国の塾長たちからの提言			
第一節	教育力の差は人生を大きく左右する	慶應受験会塾長	菅谷友豊香	372
第二節	私が歩いてきた道	東進グループ創設者代表	寺田 悦子	388
第三節	民間教育機関の現状と突きつけられている課題	京葉学舎塾長	皆倉 宣之	392
第四節	「被爆体験を小学校・中学校・高等学校で語る」 「我が道を振り返る」	英進学院塾長	石田 治正	406
第五節	総合教育研究会と下町の塾	総合教育研究会塾長	加藤 実	412
第六節	「改革」を追いかけた進路研の十五年	イデウス・ホーム・スクール塾長	平松 享	415

目次

題字	書家	大塚 瓊草	
表紙絵	画家	小嶋 良三	
口絵	画家	三村 克彦	
巻頭を飾るカラーアルバム・アルバム百年史(その1・その2)	編集長	佐藤 勇治	3
カラーアルバムとキャプションで綴る平成の時代(平成十二年〜平成二十三年)			
アルバムとキャプションで綴る安政、明治、大正、昭和、平成の時代(安政四年〜平成十二年)	編集長	佐藤 勇治	69
巻頭言			145
特別寄稿「学習塾百年の歴史」に寄せて			
第一章 各界有識者の特別寄稿			
子どもを健やかにはぐくむ環境づくりにおける塾の役割について	文部科学省生涯学習政策局生涯学習推進課長	藤野 公之	151
六三制の始まった頃	東京大学名誉教授	松丸 道雄	153
「成功する子供」の育て方	京都大学経済研究所特任教授	西村 和雄	157
「全国教育ボランティアの会」活動記	一橋大学名誉教授	中嶋 浩一	160
新しい時代の新しい教育へ	衆議院議員	下村 博文	167
学習塾百年の歴史・塾団体五十年史に寄せて	参議院議員	大島九州男	169
「学習塾百年の歴史」の刊行に寄せて	日本私立中学高等学校連合会会長	吉田 晋	171
「学習塾百年の歴史」に寄せて	東京私立中学高等学校協会会長	近藤 彰郎	172
第二章 公立高等学校・私立中学校 高等学校 学校長 特別寄稿			
日本の高校教育を考える	埼玉県立浦和高等学校学校長	関根 郁夫	174
「学習塾百年の歴史」に寄せて	千葉県立千葉高等学校学校長	高岡 正幸	177
公立高校のフラッグシップとしての日比谷高校の使命と役割	東京都立日比谷高等学校学校長	石坂 康倫	180
学びの原動力は好奇心	大阪府立北野高等学校学校長	八尾 隆	184
中高六年完全一貫教育の意義	私立灘中学校・灘高等学校学校長	和田 孫博	188
「学習塾百年の歴史」発刊に寄せて	私立東大寺学園中学校・高等学校学校長	矢和多忠一	192
表紙絵「重文開智学校」に寄せて	創造美術・信州美術画家	小嶋 良三	196

寄稿： 10年間須原英数教室で学んで

—浪人体験記—

東大寺学園高校卒 京都府立医科大学 1年

谷口 敦基

僕は、小4～1浪までの十年間もの長い間須原英数教室にお世話になりました。(多分、同じ東大寺学園から東大文Iに進まれた原光平先輩に並び塾生最長記録だと思います。)そんな僕の過去の受験体験やアドバイス、塾での思い出等を今回この場で書ければと思います。

僕は須原英数教室に通わせていただく前には、大手進学塾のN学園に通っていました。(通っていたと言っても2ヶ月ほどでしたが)正直、学校が終わってすぐ塾のような生活で、なかなか友達と遊ぶ暇もなかったのが嫌でやめ、母の勧めからこの須原英数教室に通わせていただきました。大手塾の雰囲気しか知らなかった僕にとって個人塾の雰囲気は目新しく、何より授業の途中でお菓子を出してもらえることに喜び、毎週の授業が楽しみで仕方なかったです。それ以前は、塾と聞くと嫌だったのですが先生の面白い授業のおかげで、須原英数教室に通いだしてから今まで、毎週塾に行くことに全く苦痛を覚えませんでした。とび級Bで受験勉強を始めてからは、須原先生のおっしゃるように勉強をしていました、というよりおっしゃられたことしかやっていません。正直、6年生の頃も多少余裕があり友達と遊んだりもしていました。勉強は先生に言われたことだけを集中してやったからこそ、質の高い勉強だったので、実力がしっかりついたと思います。だから入試本番では得意の算数が簡単だったために他に差をつけることが難しく、両親や須原先生には多大な心配をおかけしながらも東大寺学園にも合格できたのだと思います。中学受験を今後むかえる後輩たちは、先生の言葉を信じて言われた通りにやっていたら自ずと結果はついてくると思います。頑張ってください。(正直、中学受験は7年も前なのであまりアドバイスできていません。すいません。)

中学に入ってからクラブに精を出し、毎回テストで同じような成績ばかりで勉強はそれほど(ほとんどかもしれません笑)やっていませんでした。毎回成績を見せる度に『勉強不足でした』と言いつばかりで、先生には『またか』と呆れられていたと思います。高校に入ってから、クラブに文化祭にと大忙しでこれまた勉強していませんでした。そのままの流れで高校3年生を迎えました。高校3年になっても勉強しない癖は抜けずそのままズルズルと受験を迎えてしまいました。あの頃の自分は非常に考え方が甘く、まあ勉強してなくても受かるだろうと考えていました。そのままセンター試験となり、センターの出来8割2分で医学部受験を行うには到底足りないような点でした。センターのビハインドを埋めるべく、D判定だった二次試験の非常に難しい京都府立医科大学にのぞみ、案の定不合格で、浪人が決まりました。(センターもろくに取れないのに二次で逆転しようと考えている時点で考え方

が甘いですよ。) センター明けに先生に、『君は落ちて浪人すべきだ』と言われました。その頃の僕は非常に腹が立ったのですが、浪人してから思うにあの言葉は正しく、浪人することで自分の甘さや考え方、勉強に対する姿勢が変わったように思います。3月受験が終わっていきなり先生に『浪人生は4・5・6月の三ヶ月をいかに過ごすかが大事だ!』と喝を入れられ、基礎のできていなかったことを自分自身でも不合格から認めていたので、先生のいうことをちゃんと聞き、高校三年の時にやってなかった速読英単語をふたたびやり直し始めました。

4月に入ってから予備校(S台大阪校)が始まりました。その予備校では理系の一番上のクラスで同じ高校の友人が多くいたことから、ある意味高校の頃と変化がないような感じでした。予備校の授業は一番上のレベルのクラスならば、もっと実践的なことから始まると思っていたら、本当に基礎の部分から始まりびっくりしたと同時にやっぱり須原先生のおっしゃるとおり『基礎が大事だ』ということのを再認識させられました。それからは、(高校時代はできていなかったのですが)授業の予習・復習を行い、塾では速読英単語をひたすらやり、基礎の勉強を固めていきました。この頃の模試では、高校時代と同じように、阪大がD判定で、なかなかすぐには伸びませんでした。夏休みまでは上述のような生活を毎日送っていたのですが、5月にはいると予備校生活にも慣れ、少し勉強がおろそかになったりもしましたが、教室に行くことで須原先生に『檄』を飛ばしていただき、それほど中だるむことはなかったと思います。

夏休みにはいると予備校は講習という形で日々の授業がなくなり、自分の勉強を始めました。とはいえ、自分の勉強といっても本当に、前期の予備校のテキストを復習したり、速読英単語をやったり、講習の予習・復習をしたりと苦手な科目を重点的に繰り返しただけでほかのことは何もしていないのですけど…。夏休みをどう乗り切ることが合格を左右すると須原先生には度々言われていましたので、自分を信じてただただ『基礎の繰り返し勉強』を行ないました。(しかしさすが理系の一番上のクラス、浪人生は実に優秀な生徒が多く、彼らが新しい勉強を始めたり実践的な勉強をし出したので、正直なところ内心僕は焦ったこともありましたが。)ここでかなり個人的な話になりますが、予備校で僕の英語の恩師ともいえる先生に巡り合うことができました。僕は昔から英語が苦手でなかなか伸びないことに悩んでいました。その先生の訳し方は独特で、僕には非常にフィットし、今までの疑問が溶けたようでした。その先生にお会いしてからは、先生の訳し方を真似、毎回授業前に訳の添削を行なってもらいました。それ以降は本当に英語を読むのが楽しくなりました。ここでその訳し方の一部をかき摘んで紹介したいと思います。もし、自分に合うなあと思ったら試してみてください。その先生の訳し方は前から前から訳すのです。翻訳家は英語を話す人の英語を聞いて、すぐに訳を作りますよね?ではその翻訳家は関係詞を訳すときに後ろから戻って訳していると思いますか?いいえ、そういう人は、常に前から前から訳しているのです。『前から訳す』簡単なようですがなかなかうまくできるわけではありません。うまく訳すには前置

詞、関係詞等の性質をよく理解することが大事です。あまりうまく説明できませんでしたが、これを読んで何か感じてもらえれば幸いです。特に僕が思うに、中学3年生の頃に須原先生に『語順訳』を習っていたからこそ、僕はその先生のやり方を素直に受け入れることができたのだと思います。

夏休み以降でも、駿台の授業は同じように基礎中心でした。この頃の模試から、苦手の英語が伸びてき、また得意の数学や理科も安定して点が取れるようになり、京都府立医科大学でA判定を取るようになりました。この頃から、僕のクラスの友人でも駿台の授業をサボったりする者も多くなり、なかには油断しているような友人もみかけられました。しかし僕は、模試の結果ひとつ取ってみてもまだレベルの高いクラスの中では真ん中程度だったので油断する暇もなく、更に須原英数教室に通っていることで須原先生の目には見えない・耳には聞こえないものが僕を包んでいましたので（先生は『天使のささやきだ』と言われますが僕は……）、勉強に専念し続けられたと思います。冬休み前になって、秋の模試が返ってきて、初めて阪大医学部でB判定を取ることができました。須原先生には、高校時代から何度も『君は本気を出して勉強すれば阪大でもどこでも行ける』と言われていました。ですが正直、それまでは、全く信じておらず『阪大とかは難しすぎて自分には…』と思っていました。しかし、模試の結果B判定を見ると、阪大が手の届きそうなところに来たような気がしてすごく嬉しかったことと、もう少し現役時代に本気で勉強に打ち込んでいればなあという思いもありました。そして同時に、生徒の能力をよく把握しておられる須原先生はやっぱりすごいなあと思いました。みなさん、先生が行けるといったところには努力すれば必ず合格します。それを信じて頑張ってください。

冬休みになってからは、予備校の講習でのみ二次対策を行い、あとの時間はほぼセンター対策を行ないました（対策といっても過去問と知識の復習だけです）。この頃のセンター過去問演習では、だいたい自分の目標としている点は維持できるようになりました。昨年の高3の時の得点仮定と比較すると、自分の実力をしっかり評価できていなかったことがよくわかり、去年の自分の甘さを痛感しました。今、僕は個別指導のバイトで高3の男の子の物理・化学を指導していますが、やっぱり高3の頃の自分と同じように、その子もかなり高い得点仮定をしており少し実現性に欠けているように思います。受験生のみなさんは一度、センター試験でこれくらいは取れるだろうと思う『得点の仮定』をしっかりと見直して、本当に実現可能かどうかを確認してみることをおすすめします。

センター試験当日は、同じ会場に友人がいたこともあり緊張することもなく試験を迎えました。僕の受けた地理は難しかったのですが、次の英語に足を引っ張ることもなく、一日目を終え、二日目は得意の理科・数学だったので気楽に受けることができました。

センター試験翌日の自己採点はテストよりも緊張しましたが、苦手の国語が8割をこえていたので安心し、すんなりと自己採点を終えました。結果としては、9割1分で自分の中の最高記録でした。（ちなみにリスニング抜きでは9割3分でした、リスニングは…）しかし、

点数が確保できた喜びよりもむしろ、簡単やった気がするから周りをもっと良い成績を取っているのではないかと、9割1分の成績で例年通り広島大学医学部の後期に出せるだろうか、とそればかりが気がかりでリサーチが戻って来るまで非常に怖かったです。リサーチが返ってくると自分の予想通りセンターの平均点は非常に高く、後期の広島大学は安全とはいえ、二浪は嫌だったので、鳥取大学に落とさざるを得ませんでした。前期に関しては、阪大、名大でB判定、京府医がA判定で、非常に迷ったのですが一番安全かつ雰囲気が一番自分に合っているように感じていたので京都府立医科大学に決めました。

センターから二次までの一ヶ月はひたすら過去問をやったぐらいしか覚えていません。二次試験の当日は緊張しましたが、センターで多少余裕もあり、去年も京府医を受けていたこともあって落ち着いて試験を受けることができました。物理・化学では物理が例年以上に難しかったのですが、化学でその分を埋め、また数学も2完でき、安心して英語に望むことができました。去年はセンターの分を取り返さないと！と思っていたので焦りがあったと思います。センター試験の重要性を痛感し、内心ホットしながら受験できました。合格発表までは落ち着かない毎日に非常に疲れました。合格発表をみたときは本当に嬉しく、開放感でいっぱいでした。自分としては一年間のリベンジに成功し、一年のいい結果だと思います。

これにて僕の浪人体験記は終わりです。現役生のみなさんからすると浪人は一年間無駄にしたと思うかもしれませんが、しかし、僕は浪人の一年から得るものこそ大きかったと思います。(一応言っておきますが、浪人しろとまでは言っていません。もちろん現役合格を目指してください。)僕個人としては考え方が大人になったように思います。

最後に浪人した時の一年間の心構えを述べて終わりたいと思います。

《心構え》

- ・基本を大切にすること。基礎がないと応用力もつかない。常に基礎の反復を。
- ・授業を大切に、授業に出るからにはしっかり集中して聞く。
- ・先生には積極的に指導を仰ぐ。
- ・周りは周り、自分は自分、自分のやったことを信じて。
- ・いろんなことに手を出さなくても同じことの繰り返しで十分に力がつく。
- ・勉強でもなんでも楽しんで、メリハリつけて。

この学年の『とび級B』(私国立中学受験教室)には5人の男子生徒がいました。3人が東大寺学園に2人が清風理Ⅲに進学しました。生徒も保護者も勉強熱心で、深い信頼関係で結ばれており、三位一体となって中学受験に臨めた時代でした。特に谷口敦基君は人懐っこい素直な子でした。東大寺学園の6年間、もう少し本気で勉強に打ち込んでおればまた異なった結果が出ていたかも知れませんが、浪人中の1年間は良く頑張ったと思います。ご両親が挨拶に来られ、『私の家族や身内から将来医者が出るなんて信じられません』と話されました。その折、敦基君とお母さんに原稿の依頼をして、この10年を振り返ってもらいました。

谷口 雅子

御心配をおかけしました。が、今春、須原先生
の元を巣立つ事ができました。

須原先生、きよみ先生には、十年間、本当に
お世話になり、「感謝」の念で一杯です。

今もまだ、息子が塾に通わせて頂いている気
分は変わりません。それくらい塾が生活の一部
になっていたので改めて感じております。

学校と塾の生活があたり前のようにくり返さ
れ続いた十年間でした。平穏な時はかりでは

ありませんでした。が、息子の人生を決め
ると言っても過言ではない十年間を、須原先生
の元で過させて頂いたことは、この上ない幸
福だ、たと思えます。

振り返りますと、親子で無我夢中で乗り越
えた中学受験は大変でしたが、今から思えば
親が子供に関わる事ができる唯一の時間を果
しみながらがんばったように思います。毎日
くり返し同じ問題を何回解いたでしょうか、
何回読んだでしょうか、こつこつと積み重ね

2

ていく勉強量ではなく質のいい勉強では、
真面目に取り組む姿勢を学びました。学校生
活と塾を両立する事により、何事にもやる気
を持ち、積極的に取り組む姿勢を学びまし
た。それにより子供らしさを失わず、明るく
のびのびと成長しました。この頃に学んだ事
が、すべて将来へつながる土台となつたので
す。しかもごく自然に培われてい、たのです。
ここで培われた土台により、中学、高校生活
をも充実させたのは言うまでもありません。

学年を越えて、様々な考えを持つ先生方に接
し、見聞を広める事ができた事も将来へとつ
ながりました。様々な活動を通して、思い切
り自己表現できたのではないのでしょうか。
卒業時に、六年間、学園生活に悔いはなし
と言った息子の顔はとても満足そうでした。
ただ一つ、悔いが残っているとしたら勉強だ。
たでしょう。結果、浪人生活を迎える事にな
ってしまったのですから。息子にとっては何
自分を省み、今までの勉強法をじっくりと見

つめ直す機会を与えられたと思えます。そして、十年前に教わった勉強法が一番の勉強法だったんだと改めて感じたのではないでしょう。か。息子の問題集を見ますと、何度もうくり返した跡がありました。それを見た時、息子が先生を信じ、自分を信じて、一年間がんばってきたんだと確信しました。親としては、不安な日々でしたが、須原先生はいつも、健康管理だけです。子供を信じて下さい。と言って励まして下さり、心強い思いで過ごさせて頂きました。

気がつけば、いつも私達親子の後ろで我慢強く、温かい眼で見守って下さり、これほど安心感を与えて下さったことでしょうか。いつでもすぐに御相談ができ、的確なアドバイスを頂ける事が、これだけ親子の関係をスムーズにさせて頂いたかわかりません。そして、私達親子の道を歩き、常に、迷わず良き道へと導いて下さいました。息子が、「医師」という道を選んだのも、須原先生や学校の先生

方のお導きのおかげだと思えます。これから、この道と着実に歩いて行って欲しいと思えます。

最後に、以前須原先生が書かれた文の中で、私がとても感動した一節があります。

「やがて花を咲かせ、立派な実をつけるためには、それまでに十分な養分を吸収することが必要だ。その養分を吸収すべき時期なので、そして大人になって、社会に出た時には、今度はそれを生かして社会に貢献しなければいけない。そのための勉強なのだ。」

まさにこの通りだと思えます。息子にもずっと心に留めていて欲しいと思えます。

親としては、いつも反省ばかりの成長できない親でしたが、本当に色々な事を学ばせて頂いた10年間でした。そして、私達家族にとりまして、須原先生、きよみ先生との御縁は、一生忘れることはありません。

本当に、ありがとうございます。

公立高校トップ10

学区再編後の卒業生が大学受験を迎えて今年で3年目でした。公立高校トップ10を中心に合格実績を記録していますが、その動向も落ち着いてきた様子です。東大に入るには各学区のトップ校に、京大に入るにはトップ10の高校に進まないと合格できないような傾向がはっきりと出てきました。橋下徹大阪府知事の頃、東大・京大・阪大・神戸大・慶応・早稲田の6大学で合格者を1500名にするという計画は、従来から1000人近くの合格者が出ていましたが、1000人を少し超えたところで頭打ちになり、最近ではそれを声に出して言う人もほとんど見かけなくなりました。

文理学科の入試が始まって2年が過ぎましたが、例えば320人の定員の学校に900人が志望していたとして、従来の普通科だけの入学試験では、 $900 \div 320 = 2.81$ の倍率が、文理学科では半分の160人が定員ですから、 $900 \div 160 = 5.63$ の2倍の倍率に跳ね上がり、後期普通科はやはり定員が160名ですから、文理学科に落ちた子 $900 - 160 = 740$ 名が受験すると、 $740 \div 160 = 4.63$ の高い倍率になります。中身は900人中320人が合格することにかわりはないのに、合格が非常に難しくなりレベルが上がったと錯覚を起こすことになるのです。

この4月から学習指導要領が改訂されて、数学も英語も教科書が少し厚くなり、学習内容も増えました。ところが現場の公立中学校では、例えばある学校の2年生の英語では薄い1年生の教科書の内容が未だ終わっておらず、1学期中間試験は1年生最後の部分が試験範囲で2年生の内容はこれからです。2年生の1年間でより分厚い新しい教科書が終われるはずがありません。別の公立中学3年生はNEW CROWNの各LESSONの『READ』の部分をとばして授業を進めています。本来長文読解をすべき部分なのに、『読む』だけで良いためか省いた授業をしているのです。数学では教科書の『問』だけを解いて、『練習問題』をしないで進んだり、最初から教科書を全く使わないで、先生が作ったプリントで授業を進めている学校もあります。現場の先生方がそうせざるを得ない事情がお有りなのだろうとお察しいたしますが、これでは何のための改訂だったのかと疑わざるを得ません。来年度からは高校も数学・理科で学習内容が増えた授業になります。これまで『ゆとり教育』の下、学校行事やクラブ活動あるいはSSHによる探究活動をしながらも京大や阪大の合格実績を伸ばしてこられた公立高校ですが、今後はこのような学習不足の公立中学生を受け入れた上で、しかも充実した高校の学習内容も消化しなければならないとなれば、4～5年後にはトップ10やその周辺の公立高校の大学進学実績は厳しいものになるのではないかと案じられます。『学習内容の充実』が中・高6年間一貫教育の私立校への流れを、数年後に再び起こすような気がします。



2012年度大学合格状況(=新4学区制3年目の卒業生入学試験年度)

【赤色の数値は前年比の増減です】

平成24年6月3日(日)作成

高校名	卒業生数①	東大	京大	阪大	3大学合計②	②÷①	神戸大	慶応	早稲田	6大学合計③	③÷①	大市大	大府大	6国公立大④	④÷①										
北野	319	3	0	55	8	113	12	35.4%	28	-2	9	-3	24	-1	174	6	54.5%	11	-1	121	-11	164	-2	51.4%	
大手前	317	1	0	39	-6	52	14	29.0%	33	-4	3	-4	5	-3	133	-3	42.0%	24	7	20	-11	169	0	53.3%	
天王寺	315	4	3	51	-10	49	-3	33.0%	28	7	2	-12	10	-10	143	-34	45.4%	24	0	34	16	190	-1	60.3%	
三國丘	318	4	2	28	2	53	13	26.7%	30	7	2	-17	14	4	131	-16	41.2%	37	-9	35	11	187	28	58.8%	
合計	1269	12	5	173	-10	209	32	31.0%	119	-6	15	-26	53	-10	581	-15	45.8%	96	-3	101	5	710	23	55.9%	
前年比	2	5	-10	32	2	2	2.0%	-6	-26	-10	-15	-1.2%	-3	5	-23	-1.7%									

高校名	卒業生数①	東大	京大	阪大	3大学合計②	②÷①	神戸大	慶応	早稲田	6大学合計③	③÷①	大市大	大府大	6国公立大④	④÷①										
森木	318	0	-2	26	4	42	-15	21.4%	29	-10	11	-1	8	-8	116	-32	36.5%	22	11	21	11	140	-1	44.0%	
四条畷	320	0	-1	10	-6	19	-10	9.1%	28	4	2	1	4	-2	63	-14	19.7%	14	-14	23	0	94	-27	29.4%	
高津	352	0	-1	15	5	34	9	13.9%	13	-15	3	2	11	8	76	8	21.6%	30	3	24	12	116	13	33.0%	
生野	360	0	0	3	-3	24	0	7.5%	28	7	2	3	-3	60	3	16.7%	32	6	39	22	126	32	35.0%		
岸和田	315	0	0	2	-1	17	-1	6.0%	12	2	2	7	5	40	-7	12.7%	28	13	19	-3	78	10	24.8%		
豊中	318	0	0	2	1	39	13	12.9%	17	-6	2	-1	9	-8	69	-1	21.7%	15	0	12	3	85	11	26.7%	
合計	1983	0	-4	58	0	175	-4	11.7%	127	-18	22	5	42	-8	424	-29	21.4%	141	19	138	45	639	38	32.2%	
前年比	68	-4	0	-4	-8	-8	-0.9%	-18	5	-29	-2.3%	19	45	38	-0.9%										

高校名	卒業生数①	東大	京大	阪大	3大学合計②	②÷①	神戸大	慶応	早稲田	6大学合計③	③÷①	大市大	大府大	6国公立大④	④÷①										
トツポ10	3252	12	1	231	-10	384	28	19.3%	246	-24	37	-21	95	-18	1008	-44	30.9%	237	16	239	50	1349	61	41.5%	
前年比	70	1	-10	28	19	28	0.2%	-24	-21	-44	-2.1%	16	50	61	1.1%										

高校名	卒業生数①	東大	京大	阪大	3大学合計②	②÷①	神戸大	慶応	早稲田	6大学合計③	③÷①	大市大	大府大	6国公立大④	④÷①									
住吉	274	0	0	0	4	-1	1.5%	7	4	0	0	0	0	11	3	4.0%	7	3	4	-1	22	5	8.0%	
八尾	317	0	0	1	2	0	0.9%	5	0	0	1	0	9	1	2.8%	6	-16	7	3	21	-12	6.6%		
清水谷	279	0	0	2	1	0.7%	2	-2	0	1	1	5	0	1.8%	10	6	3	-2	17	3	-2	17	3	6.1%
夕陽丘	314	0	0	0	0	0	0.0%	1	0	0	0	1	1	0.3%	2	0	1	4	2	1	4	2	1.3%	
富田林	314	0	0	-1	3	-2	1.0%	8	0	-3	0	-1	11	-6	3.5%	16	4	8	4	35	6	11.1%		
合計	1498	0	0	1	0	11	-1	0.8%	23	3	-3	2	0	37	-1	2.5%	41	-3	23	5	99	4	6.6%	
前年比	-42	0	0	-1	-1	-1	0.0%	3	-3	-1	0.0%	5	4	4	0.4%									

高校名	卒業生数①	東大	京大	阪大	3大学合計②	②÷①	神戸大	慶応	早稲田	6大学合計③	③÷①	大市大	大府大	6国公立大④	④÷①											
灘	219	98	-1	34	-11	10	-14	64.8%	3	-5	20	-10	17	-3	182	-44	83.1%	2	1	4	3	151	-27	68.9%		
淡南	525	17	-8	85	-3	41	11	27.2%	37	9	39	-2	37	-3	256	4	48.8%	22	4	15	8	217	21	41.3%		
西大寺	209	42	-1	7	5	18	1	30.2%	5	14	-2	34	21	186	25	89.0%	6	3	0	150	9	71.8%				
東大	334	16	-11	66	-17	35	6	35.0%	16	-16	20	-20	32	5	185	-63	55.4%	10	-2	16	-4	159	-44	47.6%		
奈良学園	218	0	-1	12	1	17	1	13.3%	21	6	4	1	8	-5	62	3	28.4%	10	-5	6	-7	66	-5	30.3%		
聖光	217	17	6	56	3	38	7	11.1%	16	51.2%	18	5	45	11	33	6	207	38	95.4%	1	11	-5	159	17	73.3%	
清風	630	2	-1	24	3	33	5	9.4%	23	-4	11	3	16	5	109	16	17.3%	23	7	25	2	130	17	20.6%		
清風南海	265	5	0	30	-6	30	-17	24.5%	22	1	6	3	18	12	111	-7	41.9%	17	-20	13	-5	117	-47	44.2%		
四天王寺	468	4	-2	23	1	26	-8	5.3%	-9	11.3%	28	0	5	-6	13	-21	99	-36	21.2%	17	-4	15	4	113	-9	24.1%
合計	3085	201	-19	400	-19	248	-8	27.5%	176	-3	164	-22	208	7	1397	-64	45.3%	126	-15	111	-4	1262	-68	40.9%		
前年比	-74	-19	-19	-8	-46	-8	-0.8%	-3	-22	-7	-64	-0.9%	-15	-4	-68	-1.2%										

高校名	卒業生数①	東大	京大	阪大	3大学合計②	②÷①	神戸大	慶応	早稲田	6大学合計③	③÷①	大市大	大府大	6国公立大④	④÷①											
桐蔭	626	1	-2	50	4	21	2	72	4	11.5%	33	-12	8	4	10	-2	123	-6	19.6%	8	-5	23	-3	136	-16	21.7%
大谷	284	0	0	2	-2	3	-2	5	-4	1.8%	11	3	0	-2	3	1	19	-2	6.7%	12	8	3	-6	31	1	10.9%
開明	260	0	-1	6	-4	8	1	14	-4	5.6%	16	-8	1	-2	1	-5	32	-19	12.8%	13	3	15	0	58	-9	23.2%
金光八尾	263	0	0	0	-1	5	1	5	0	1.9%	2	-2	0	-3	0	-1	7	-6	2.7%	0	-2	4	-2	11	-6	4.2%
明星	373	1	1	12	-2	25	1	33	0	10.2%	21	1	6	0	16	5	81	4	21.7%	15	-1	19	9	93	7	24.9%
カレッジ	61	2	2	2	-2	6	-2	10	-2	16.4%	5	2	1	-1	4	3	20	2	32.8%	2	-2	5	3	22	1	36.1%
須原学園	128	3	(1)	6	(1)	12	(2)	21	(2)	16.4%	6	(2)	2	(4)	2	(3)	31	(4)	24.2%	9	(5)	3	(9)	37	(9)	28.9%

【須原英数教室は16年間の累計です。()内は医学部医学科です。医学科全体では13名です。】

(サンデー毎日特別増刊「2012年度大学入学試験全記録」より)



2011年度大学合格状況(=新4学区制2年目の卒業生入学試験年度)

平成23年6月5日(日)作成

【赤色の数値は前年比の増減です】

高校名	卒業生数①	東大	京大	阪大	3大学合計②	②÷①	神戸大	慶応	早稲田	6大学合計③	③÷①	大市大	大府大	6国公立大④	④÷①												
北野	323	3	2	51	7	47	2	101	11	31.3%	30	3	12	0	25	14	168	28	52.0%	12	-1	23	-2	166	11	51.4%	
大手前	314	1	1	45	11	38	-2	84	10	26.8%	37	3	7	4	8	7	136	24	43.3%	17	5	31	9	169	27	53.8%	
三宮守	318	2	1	26	1	30	52	114	39	36.5%	35	1	8	20	18	17	177	62	56.7%	24	-7	18	-9	191	22	61.2%	
天竺	1267	7	2	183	47	177	9	367	58	29.0%	125	-3	41	21	63	39	586	115	47.0%	99	1	96	-4	687	52	54.2%	
前年比										4.6%	-3	21			39					9.0%		-4			52		4.0%

高校名	卒業生数①	東大	京大	阪大	3大学合計②	②÷①	神戸大	慶応	早稲田	6大学合計③	③÷①	大市大	大府大	6国公立大④	④÷①												
浜木	321	2	1	22	-6	57	1	81	-4	25.2%	39	12	7	16	11	148	26	46.1%	9	-1	10	-1	139	6	43.3%		
四条	319	1	1	16	-4	29	-7	46	-10	14.4%	24	-6	1	-3	6	-4	77	-23	24.1%	28	7	23	4	121	-5	37.9%	
高津	317	1	1	10	5	25	2	36	8	11.4%	28	8	1	3	-2	68	11	21.5%	27	6	12	-10	103	12	32.5%		
生野	318	0	0	6	-2	24	0	30	-2	9.4%	21	13	0	-2	6	1	57	10	17.9%	26	8	17	-3	94	16	29.6%	
岸和田	319	0	-1	3	0	18	4	21	3	6.6%	0	2	2	-2	3	-2	33	-2	10.3%	15	-16	22	-4	68	-20	21.3%	
豊中	321	0	0	1	-3	26	9	27	6	8.4%	23	3	-3	17	9	70	20	21.8%	15	7	9	-6	74	15	23.1%		
合計	1915	4	2	58	-10	179	9	241	1	12.6%	145	32	17	-4	50	13	453	42	23.7%	120	11	93	-20	599	24	31.3%	
前年比										-0.1%	32				13					2.2%					24		1.1%

高校名	卒業生数①	東大	京大	阪大	3大学合計②	②÷①	神戸大	慶応	早稲田	6大学合計③	③÷①	大市大	大府大	6国公立大④	④÷①												
トップ10	3182	11	4	241	37	356	18	608	59	19.1%	270	29	58	17	113	52	1049	157	33.0%	219	12	189	-24	1286	76	40.4%	
前年比										1.7%	29				52					4.9%					76		2.2%

高校名	卒業生数①	東大	京大	阪大	3大学合計②	②÷①	神戸大	慶応	早稲田	6大学合計③	③÷①	大市大	大府大	6国公立大④	④÷①												
住吉	271	0	0	0	0	5	2	6	2	1.8%	3	0	-1	0	0	8	1	3.0%	4	-3	5	1	17	0	6.3%		
八尾	315	0	0	0	-2	2	-2	0	0	0.6%	5	2	0	1	-1	8	-1	2.5%	22	17	4	-2	33	15	10.5%		
清水谷	320	0	0	-1	1	-1	-2	0	0	0.3%	4	2	0	-4	5	4	1	1.6%	4	2	5	2	14	4	4.4%		
夕陽丘	317	0	0	0	0	-1	0	0	0	0.0%	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	2	1	0	-3	2	-3	0.6%		
富田林	317	0	0	1	0	4	0	5	0	1.6%	8	-4	3	1	-1	17	-2	5.4%	12	-6	4	-8	29	-18	9.1%		
合計	1540	0	0	1	-1	12	-2	13	-3	0.8%	20	0	2	-6	38	-7	25.5%	44	11	18	-10	95	-2	6.2%			
前年比										-0.3%	0				-6					-0.5%					-2		-0.3%

高校名	卒業生数①	東大	京大	阪大	3大学合計②	②÷①	神戸大	慶応	早稲田	6大学合計③	③÷①	大市大	大府大	6国公立大④	④÷①												
灘	219	99	-4	45	10	24	1	166	7	76.7%	8	0	30	-18	20	-17	226	-28	103.2%	1	-2	1	-6	178	-1	81.3%	
洛南	522	25	9	88	5	30	0	143	14	27.4%	28	-13	41	7	40	-8	252	0	48.3%	18	-1	7	-13	196	-13	37.5%	
東大寺	217	43	6	65	-6	17	-8	125	-8	57.6%	7	-1	16	-14	13	-5	161	-28	74.2%	3	-8	6	-5	141	-22	65.0%	
西大和	299	27	5	83	0	29	7	139	12	46.5%	32	-10	40	12	37	6	248	20	82.9%	12	0	20	-3	203	-1	67.9%	
奈良学園	213	1	-4	11	-10	16	8	28	-6	13.3%	15	3	-5	13	-6	19	-9	28.0%	15	0	13	-3	71	-1	33.6%		
清泉	213	11	-4	53	15	31	-1	95	10	44.6%	13	-6	34	-4	27	6	169	6	79.3%	18	1	16	1	142	6	66.7%	
清風	726	3	0	16	-8	28	-16	47	-24	6.5%	27	-1	8	-11	-14	93	-50	12.8%	16	-15	23	-2	113	-42	15.6%		
清風南海	282	5	2	36	1	47	8	88	11	31.2%	21	-1	3	-16	6	-12	118	-18	41.8%	37	11	18	-9	164	12	58.2%	
四天王寺	470	6	4	22	-18	34	0	66	-14	13.2%	28	-5	11	4	34	19	135	4	28.7%	21	-13	11	-5	122	-37	26.0%	
合計	3159	220	14	419	-11	256	-1	895	2	28.3%	179	-29	186	-45	201	-31	1461	-103	46.2%	141	-27	115	-45	1330	-99	42.1%	
前年比										0.7%	-29				-31					-2.3%					-99		-2.2%

高校名	卒業生数①	東大	京大	阪大	3大学合計②	②÷①	神戸大	慶応	早稲田	6大学合計③	③÷①	大市大	大府大	6国公立大④	④÷①												
桐蔭	634	3	3	46	7	19	8	68	18	10.7%	45	11	4	-2	12	1	129	28	20.3%	13	3	20	2	152	34	24.0%	
大谷	318	0	0	4	-3	5	-3	9	-5	2.8%	8	2	2	1	2	-2	21	-4	6.6%	4	-1	9	4	30	0	9.4%	
関明	307	1	1	10	-3	7	-7	18	-9	5.9%	24	10	3	1	6	4	51	6	16.6%	10	3	15	2	67	6	21.8%	
金光八尾	309	0	0	1	0	4	-3	5	-3	1.6%	4	2	3	3	1	1	13	1	4.2%	2	6	-2	17	-1	5.5%		
明星	372	0	0	14	5	24	8	38	13	10.2%	22	-1	6	-7	11	-8	77	-3	20.7%	16	-2	10	-6	86	4	23.1%	
カレッジ	70	0	0	4	3	8	5	12	8	17.1%	3	-2	2	-2	1	-8	18	-4	25.7%	4	2	-4	2	4	30.0%		
須原英数教室	118	3	(1)	6	(1)	12	(2)	21	(2)	17.8%	6	(2)	2	(2)	2	(2)	31	(4)	26.3%	9	(5)	1	(7)	(9)	37	(9)	31.4%

【須原英数教室は15年間の累計です。()内は医学部医学科です。】

(サンデー毎日特別増刊「2011年度大学入試全記録」より)



2010年度大学合格状況(=新4学区制最初の卒業生入学試験年度)

平成22年6月4日(金)作成

【赤色の数値は前年比の増減です】

高校名	卒業生数①	東大	京大	阪大	阪大	3大学合計②	②÷①	神戸大	慶応	早稲田	6大学合計③	③÷①	大市大	大府大	6国公立大④	④÷①										
北野	313	1	-2	44	-13	45	-9	90	-24	28.8%	27	2	12	0	11	-6	140	-28	44.7%	13	0	25	9	155	-13	49.5%
大手前	323	0	-7	34	-4	40	20	74	9	22.9%	34	11	3	-2	1	112	17	34.7%	12	-15	22	-4	142	1	44.0%	
天王寺	315	3	-1	31	-19	41	19	75	-1	23.8%	36	10	2	-4	2	115	-8	36.5%	31	0	27	3	169	12	53.7%	
三国丘	315	1	0	27	-3	42	9	70	12	22.2%	31	-2	3	0	10	-6	114	4	36.2%	42	7	26	-2	169	15	50.7%
合計	1266	5	-10	136	-33	168	39	309	-4	24.4%	128	21	20	-6	24	-26	481	-15	38.0%	98	-8	100	6	635	15	50.2%
前年比	-2	-10	-33	-39	-4	-4	-0.3%	21	-6	-0.3%	21	-6	-26	-8	-1.1%	-15	-1.1%	-1.1%	-8	-8	6	6	15	635	15	50.2%

高校名	卒業生数①	東大	京大	阪大	阪大	3大学合計②	②÷①	神戸大	慶応	早稲田	6大学合計③	③÷①	大市大	大府大	6国公立大④	④÷①										
茨木	319	1	28	-4	56	7	85	4	26.6%	27	-11	5	1	5	-9	122	-15	38.2%	10	-12	11	1	133	-18	41.7%	
四条畷	317	0	20	0	36	3	56	3	17.7%	30	2	4	-2	10	1	100	4	31.5%	21	4	19	4	126	13	39.7%	
高津	315	0	5	-4	23	0	4	4	8.9%	17	0	4	5	-2	54	-2	17.1%	21	-6	22	10	88	0	27.9%		
生野	316	0	-1	8	-4	24	-11	32	-8	10.1%	8	-17	2	1	5	1	47	-23	14.9%	18	-8	20	-9	78	-42	24.7%
岸和田	314	1	0	3	-9	14	-12	18	-21	5.7%	13	-7	0	-1	4	1	35	11.1%	31	11	26	24	88	7	28.0%	
豊中	314	0	0	4	1	17	-4	21	-3	6.7%	15	-1	6	1	8	-3	50	-6	15.9%	8	-9	15	3	59	-10	18.8%
合計	1895	2	68	-12	170	-17	240	-29	12.7%	110	-34	21	4	37	-11	408	-70	21.5%	109	-20	113	33	572	-50	30.2%	
前年比	-20	0	-12	-17	-17	-29	-1.3%	-34	4	-11	-70	-9.1%	-20	33	-50	-2.3%										

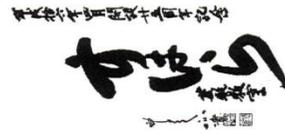
高校名	卒業生数①	東大	京大	阪大	阪大	3大学合計②	②÷①	神戸大	慶応	早稲田	6大学合計③	③÷①	大市大	大府大	6国公立大④	④÷①										
トップ10	3161	7	-10	204	-45	338	22	549	-33	17.4%	238	-13	41	-2	61	-37	889	-85	28.1%	207	-28	213	39	1207	-35	38.2%
前年比	-22	-10	-45	-22	-22	-33	-0.9%	-13	-2	-37	-85	-2.5%	-28	39	-35	-0.8%										

高校名	卒業生数①	東大	京大	阪大	阪大	3大学合計②	②÷①	神戸大	慶応	早稲田	6大学合計③	③÷①	大市大	大府大	6国公立大④	④÷①									
住吉	270	0	0	0	-1	3	-4	3	-5	1.1%	3	-1	1	0	-2	7	-7	2.6%	7	-1	4	-8	17	-15	6.3%
八尾	317	0	0	0	4	2	4	2	1.3%	3	2	0	2	2	9	6	2.8%	5	-10	6	2	18	-4	5.7%	
清水谷	317	0	0	1	2	0	3	1	0.9%	2	2	0	4	4	9	7	2.8%	2	3	-4	10	1	3	2	3.2%
夕陽丘	273	0	0	0	1	1	1	1	0.4%	0	0	0	0	0	1	1	0.4%	1	-3	3	3	5	1	1.8%	
富田林	316	0	0	1	4	1	5	2	1.6%	12	6	0	2	-2	19	6	6.0%	18	2	12	1	47	11	14.9%	
合計	1493	0	2	1	14	0	16	1	1.1%	20	9	1	8	2	45	13	3.0%	33	-10	28	-6	97	-6	6.5%	
前年比	35	0	1	0	0	1	0.1%	9	1	2	13	0.8%	-6	-6	-6	-0.6%									

高校名	卒業生数①	東大	京大	阪大	阪大	3大学合計②	②÷①	神戸大	慶応	早稲田	6大学合計③	③÷①	大市大	大府大	6国公立大④	④÷①										
灘	219	103	0	35	-2	23	8	161	6	73.5%	8	7	48	1	37	-7	254	7	116.0%	3	-1	7	179	19	81.7%	
洛南	533	16	-13	83	-22	30	-23	129	-58	24.2%	41	13	34	-19	48	-25	252	-89	47.3%	19	-8	20	1	209	-52	39.2%
東大寺	215	37	-7	71	5	25	0	133	-2	61.9%	8	0	30	0	18	-8	189	-10	87.9%	11	3	11	3	163	4	75.8%
西大和	305	22	5	83	8	22	-13	127	0	41.6%	42	15	28	-5	3	0	228	10	74.8%	12	3	23	5	204	23	66.9%
奈良学園	236	5	3	21	3	8	-10	34	-4	14.4%	7	-7	8	4	19	5	68	-2	28.8%	15	8	16	6	72	3	30.5%
星光	216	15	3	38	-4	32	5	85	4	39.4%	19	9	38	9	21	-7	163	15	75.5%	17	1	15	1	136	15	63.0%
清風	716	3	2	24	7	44	27	71	22	9.9%	28	1	19	2	25	12	143	37	20.0%	31	7	25	-4	155	26	21.6%
清風南海	306	3	-2	35	3	39	3	77	4	25.2%	22	19	9	18	3	136	18	44.4%	26	9	27	-3	152	12	49.7%	
四天王寺	478	2	-3	40	15	34	-5	76	7	15.9%	33	13	7	2	15	-3	131	19	27.4%	34	11	16	6	159	37	33.7%
合計	3224	206	-12	430	-1	257	-8	893	-21	27.7%	208	53	23	3	232	-30	1564	5	48.5%	168	33	160	22	1429	87	44.3%
前年比	-32	-12	-1	-8	-8	-21	-0.9%	53	3	-30	5	0.6%	33	22	87	3.1%										

高校名	卒業生数①	東大	京大	阪大	阪大	3大学合計②	②÷①	神戸大	慶応	早稲田	6大学合計③	③÷①	大市大	大府大	6国公立大④	④÷①										
大谷	315	0	0	6	1	8	0	14	1	4.4%	6	0	1	0	4	-2	25	-1	7.9%	5	1	5	0	30	2	9.5%
金丸八尾	264	0	0	1	0	7	4	8	4	3.0%	2	-1	12	2	4.5%	0	12	2	4.5%	0	-5	8	7	18	5	6.8%
明星	364	0	0	9	2	16	-12	25	-10	6.9%	23	-2	13	-4	19	-2	80	-18	22.0%	18	-1	16	-5	82	-18	22.5%
カレッジ	62	0	1	3	3	4	4	4	6.5%	5	4	9	2	22	35.5%	2	22	35.5%	2	6	6	17	6	17	27.4%	
須原英数教室	114	3	(1)	6	(1)	12	(2)	21	(2)	18.4%	6	(2)	2	1	30	(4)	30	(4)	28.3%	9	(5)	1	37	(9)	32.5%	

【須原英数教室は14年間の累計です。()内は医学部医学科です。】【智辯奈良カレッジは2010年度が最初の高校卒業生です。】(サンデー特別増刊)2010年度大学入試記録より



2012年度進学状況

(合格状況ではありません。)



【大学】10名

今年は現役7名と浪人4人の計11名が受験しました。現役生1人が浪人しました。国公立大学前期二次試験で、数学で実力を発揮できなかった子が何人かいて、『合否の鍵は数学』を再認識させられた学年でした。

京都府立医科大学	医学部	東大寺学園卒
愛媛大学	工学部	清風高校卒
琉球大学	農学部	住吉国際科学学校卒
奈良女子大学	理学部	金光八尾高校3年
筑波大学	生命環境学群	清風高校3年
富山大学	理学部	住吉国際科学学校3年
兵庫県立大学	理学部	高津高校3年
北里大学	獣医学部	住吉国際科学学校卒
同志社大学	文化情報学部	金光八尾高校3年
大阪芸術大学	芸術学部	金光八尾高校3年

【高校】7名

昨年は8人の内5人が、今年は7人の内やはり5人が私立専願の受験をしました。私立高校授業料無償化の影響は今年も続いています。

上宮高校	英数コース	曙川中学校
上宮高校	プレップコース 2	曙川中学校×2
開明高校	6年編入コース	曙川中学校
関大北陽高校	特進Iコース	曙川南中学校
天王寺高校	文理学科	曙川中学校
高津高校	普通科	曙川中学校

【中学】 2名

『とび級B』から一人受験しました。『詰めの学習』が私の思うように出来ず、心残りである中学受験になりました。

清風学園 理Ⅲコース

刑部小学校

『とび級A』（公立中学校進学教室）からも1人受験しました。夏ごろから急に受験勉強を始めました。毎年とび級Aからの合格者が出ています。

金光八尾 特進Ⅱコース

刑部小学校

過去16年間の大学進学実績 《2012.3.31.現在》

合格実績ではありません。進学実績です。

愛すべき『居候』諸君（高2の途中から費用をいただいておりますので、親しみをこめてこう呼んでいます）が128名になりました。彼らの地味な努力の結果です。医学部医学科に1割強の13名、国公立大学に約半数の61名が進学しています。13名の医学科合格者の内、保護者が医師であるのは3名だけで、10名は普通の家庭の生徒です。

国立大学 47名

東京大学	3	理科Ⅲ類（医）	1	東大寺	文科Ⅰ類	2	東大寺2
京都大学	6	医学部（医）	1	星光	農学部	2	清風・東大寺
		工学部	3	東大寺・天王寺理数科・明星			
大阪大学	12	文学部	2	プール・大谷	人間科学部	1	東大寺
		経済学部	1	西大和	外国語学部	1	住吉科学
		工学部	5	東大寺2・奈良学園・清風・大手前理数科			
		基礎工学部	2	明星・高津			
名古屋大学	1	工学部	1	星光			
九州大学	1	農学部	1	大手前理数科			
神戸大学	6	医学部（医）	2	灘・大谷	農学部	1	大手前理数科
		工学部	1	八尾	発達科学部	1	天王寺理数科
		法学部	1	高津			

横浜国立大学	1	教育人間科学部	1	帝塚山		
奈良女子大学	2	文学部	1	高津	理学部	1 金光八尾
三重大学	2	医学部(医)	1	東大寺	生物資源学部	1 高津
静岡大学	1	農学部	1	大谷		
岡山大学	1	医学部(医)	1	星光		
徳島大学	3	歯学部	1	開明	工学部	2 住吉科学・帝塚山
信州大学	1	工学部	1	高津		
愛媛大学	2	理学部	1	関西大倉	工学部	1 清風
高知大学	1	水産学部	1	近大附属		
京都工芸繊維大学	1	工芸学部	1	高津		
筑波大学	1	生命環境学群	1	清風		
富山大学	1	理学部	1	住吉科学		
琉球大学	1	農学部	1	住吉科学		



公立大学 14名

大阪市立大学	9	医学部(医)	5	星光・東大寺3・四天王寺		
		理学部	2	高津・大谷		
		法学部	1	高津	商学部	1 明星
大阪府立大学	1	農学部	1	大手前理数科		
京都府立医科大学		医学部(医)	1	東大寺		
岐阜県立薬科大学	1		1	高津		
兵庫県立大学	2	環境人間学部	1	帝塚山	理学部	1 高津

私立大学 67名

東京慈恵会医科大学	1 (医)		1	天王寺理数科		
慶応大学	2	文学部	1	帝塚山泉ヶ丘	経済学部	1 高津
早稲田大学	2	理工学部	1	明星	創造理工学部	1 清風
麻布大学	1	獣医学部	1	西大和		
京都薬科大学	1		1	近大附属		
神戸薬科大学	1		1	プール		
大阪薬科大学	1		1	大谷		
関西学院大学	6	経済学部	4	帝塚山・高津・清風・住吉科学		
		法学部	2	帝塚山・高津		



関西大学	5	工学部	3	近大附属・清風・明星	経済学部	1	清風
		社会学部	1	高津			
立命館大学	8	理工学部	1	明星	文学部	1	高津
		経営学部	1	帝塚山	アジア太平洋学部	1	城星
		法学部	1	清風	政策科学部	1	住吉科学
		経済学部	1	高津	情報理工学部	1	奈良学園
同志社大学	5	経済学部	1	高津	理工学部	1	住吉科学
		文学部	1	大教大附属天王寺	法学部	1	金光八尾
		文化情報学部	1	金光八尾			
近畿大学	7	薬学部など					
					その他の私立大学	2	7名

過去11年間の高校進学実績 《2012.3.31.現在》

高校受験 73名

大手前高校	5	理数科4（東2・高安2）	文理学科（高安1）
天王寺高校	4	普通科3（東1・曙川2）	文理学科（曙川1）
高津高校	17	普通科17（曙川5・東4・上之島2・高安4・南高安1・新喜多1）	
住吉国際科学高校	11	東1・上之島3・高安4・高美1・曙川2	
八尾高校	5	高安3・高美1・曙川1	
清水谷高校	1	南高安1	
夕陽丘高校	2	高安1・曙川1	
花園高校国際教養科	2	上之島2	
山本高校	1	曙川1	
国立長岡高等専門学校	1	上之島1	
計		50名	

清風南海高校・開明高校・立命館高校・近大附属高校・金光八尾高校・東大谷高校等

私立専願者等 23名

12年前までにも、天王寺理数科・高津・八尾等に、
およそ半数近くの生徒が進学しています。

過去10年間の私国立中学進学実績 《2012.3.31.現在》

私国立中学受験 45名

【とび級 B=私立中学受験教室】 30名

東大寺学園	5	高安西2・刑部1・北高安1・北山本1
西大和学園	1	曙川1
四天王寺学園	2	西山本2
清風学園	6	刑部2・中高安2・高安西2（理Ⅲプレミアム1・理Ⅲ4・標準1）
奈良学園	3	南山本1・南高安1・高安西1
奈良カレッジ	4	刑部1・西山本1・南山本1・美園1
大谷学園	2	上之島1・南高安1
関西大倉	1	高安西1
大阪女学院	1	東山本1
近大附属	1	刑部1
城星	1	山本1
金光八尾	3	山本2 刑部1



11年前に『とび級 B』ができる以前にも受験生がいて、東大寺学園に2名・大阪星光学院1名・大谷学園3名・大阪教育大学附属天王寺2名・明星2名・帝塚山・清風各1名などの12名の進学者がいます。

【とび級 A=公立中学進学教室】 7名

金光八尾	5	刑部2・高安西2・南山本1（特待生1・特進Ⅰ2・特進Ⅱ2）
近大附属	1	高安西1（標準1）
城星	1	中高安1

【とび級 F=金光八尾中学受験教室】 8名 2005年度のみ臨時開設

金光八尾特待生	2	高安西1・北高安1
特進3普通	2	高安西2・高美1・刑部2
大阪産業大学附属	1	山本1

短信

この半年を写真とともに振り返ってみます。

年末恒例！大学受験生激励『かにすきパーティー』。クリスマス・イブが誕生日のみなみちゃんに仲間の生徒諸君からバースデイケーキのサブライズプレゼント！（2011. 12. 24.）



自分たちが食べるおにぎりは『おむすび隊』が活躍。ノンアルコールビールで乾杯後いよいよ開始！『小学4年生からこの日を心待ちにしていた』（日佳理ちゃん:上左端）子もいます。



下：これも毎年恒例。小学生輪投げ大会。ターゲットはお菓子。（2012. 1. 19.）





左：先輩の教室来訪。大阪市大医学部6年生松本一寛君（写真中央）。激励を受ける大学受験生たち。（2011. 12.）

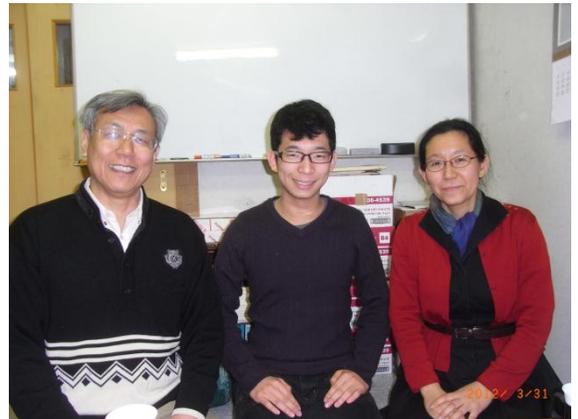


右：高校受験生冬期集中講座中馴染みの焼き芋屋さんが通過。一息入れることになりました。最終日には山本神社へ合格祈願の初詣。帰路、近く中華料理屋さんで昼食。（2012. 1. 7.）



下：先輩の教室来訪。愛媛大学4年生松葉成生君。愛媛大学大学院に進学の報告に。（2012. 1. 14.）

下：筑波大学合格の清水哲君とお母さんが教室に挨拶に来られました。（2012. 3. 31.）





左：昨年早稲田大学に現役合格をした高位
慧文君から嬉しい便りと素敵なプレゼント
が届きました。

この年は5人の内、他の4人が浪人しまし
たが、彼らと現役生の後輩たち全員に湯島
天神のお守りと合格祈願鉛筆をいただきま
した。

私の教室の自慢の一つは、進む道はそれぞ
れ違ってても、卒業後においてすら仲が良い
ということです。授業参観に来られた大阪
教育大学教授の加賀田先生は、さすがにそ
の点をよく観察していただけに感じ
入っています。

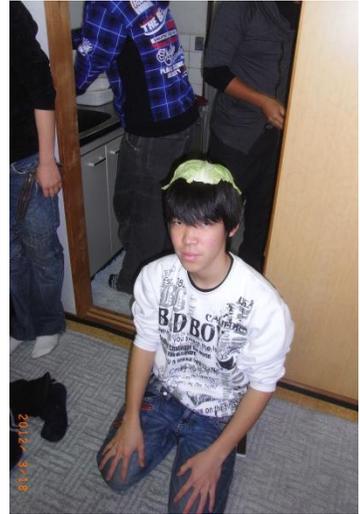
高位君どうもありがとう。(2012. 2. 3.)



下：この中学3年生諸君はとてもチームワークの良い楽しい学
年でした。『合格合宿』をやりたいと言うので、昨年9月に続い
て2回目の合宿をやりました。(2012. 3. 18.)



右：
キャベツの
帽子が似合
う子もいま
す。



今年も卒業生たちから花束と色紙の寄せ書きをいただきました。私たち夫婦にとりましては心温まる嬉しい瞬間です。花は玄関に飾り、色紙は後ほど額に入れて教室に飾っています。その後生徒諸君とステーキハウスへ食事に出かけました。かわいい女の子たちに囲まれていつもよりステーキが美味しかったなあ…！（2012. 3. 27.）



近鉄八尾と小阪にあるステーキハウス『パウハナ』は安くておいしいお店です。お勧めですよ。

左：『月刊私塾界』2004年3月号に掲載されました。お正月にインタビューを受けていましたら、偶然、小学4年生の石谷さん・松原さん・松本さん・小林さんが新年のあいさつに来てくれました。今から9年ほど前のもっともったもったかわいい時の姿です。

平成の寺小屋、エリート育成塾

から、自発的に子どもたちが勉強したい」という気持ちを持ちたいことを願っています。増える。

一方、須原校長は昨年、関西私塾教育連盟の創立40周年研修大会で「個人塾から東大へ」というテーマで講演をした。この講演内容を「教室だけで保護者の方々に伝えていく。また、年に一度しか新聞広告「チラシ」は出さない

なってもらいたくないながら、この思いをあたった。少しユニークな学予定の小学象にした。中学受験を志す高校生と私立B、公立C、D、Eが設定され

新時代のエリートとは……

新年の挨拶に来た小学生の女の子たちもとってもキュート

春期集中講座の打ち上げ、近くのバッティングセンターに行きました。いつも、その隣の吉野家の牛丼付きのフルコースです。（2012. 4. 2）



下：回転すしばかりではありませんよ。よく勉強する子はご褒美です。でもだれか大きいのが交じっているなあ…。誰？アリオオ3階『すし勤』もおいしいお寿司屋さんです。ここもお勧めです。(2012. 4. 3.)



右上：ハンバーガーをかじりながらの映画会。勉強を終えた後の映画は生徒諸君には楽しいらしいです。(2012. 4. 3.)

教え子の葛西康子さんの結婚式に招待されました。康子ちゃんらしい楽しくて明るい良い結婚式でした。(2012. 4. 21.)



教え子の森河紘希君も出席していました。大阪市大医学部を卒業して研修医2年目です。



塾長対象の説明会案内の中に『天高通信』が同封されていて、その中に今年文理学科に合格した教え子の富井君の作文がありました。今後の活躍を期待しています。(2012.4.)

菅実剛健
自由闊達

天高通信
TEN KŌ TSŪSHIN

大阪府立
天王寺高校
大阪市阿倍野区三木町2-4-23
TEL: 06-6629-6801

新1年生(67期生)の抱負

★中学3年生になるまで、僕にとって天王寺高校は雲の上にもあるかのような存在でした。けれどいつしか、そんな天王寺高校を目指している自分がありました。そして、めでたく天高生になることができました。

入学して数日は、今までの中学の雰囲気と全く違う天高の空気に気後れし、教室の空気も好ましく思いませんでした。それに、友だちができるかをとっても心配していました。でも、何度も学校へ来るうちにみんなと喋る機会も増え、クラスが楽しく思えてきています。早くみんなともっと仲良くなりたいです。僕は行事が大好きなので、天高の多彩な行事がとても楽しみです。先輩方を見ていると、高校生活をとても充実させておられるように思います。僕も、行事に部活、それに勉強などを、真剣に、一生懸命頑張り、なおかつそれら全てを楽しんで、3年しかない天高生活を充実し、悔いのないように過ごしたいです。(1年1組 富井 拓音)

下:『学習塾百年の歴史』の私の原稿の中に登場しますT君こと田中征洋君です。国立がん研究センター中央病院で大腸癌の研究をしています。4月23日、朝日新聞本社を訪問する前に、道路を挟んで建つセンターを訪問しました。遠くから教え子の姿を眺められればいいと思っていましたが、偶然運良く征洋君は30分ほど時間が取れて、嬉しい再会が出来ました。次回は築地のおいしい寿司屋に連れて行ってくれるらしいです。今からとても楽しみにしています。(2012.4.23.)

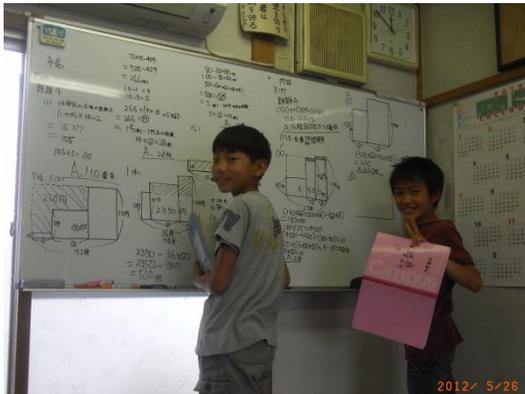


右:卒塾した教え子たちが教室をよく訪問してくれます。私たち夫婦にとって嬉しいひとときです。”MY SECOND HOME”と彼らは呼んでくれています。5月の連休中にも4~5人訪問してくれたのですが、話に夢中になって写真を取るのを忘れていました。ごめんなさい。松原日佳理ちゃんと在塾生たちです。(2012.6.1.)





私が聖和小学校の1年から3年まで担任をしていただいた前田美智子先生です。ご主人の前田茂男先生は8年ほど前に亡くなられ、80歳になられた今は一人で暮らしておられますので、お食事をご一緒願いました。子供の頃、私は体が弱く5年生頃までプールに入れませんでした。夏休み、水を怖がる私を背中に乗せて親子亀のように平泳ぎをして下さった優しい茂男先生のことを良く覚えています。前田先生は『和紙のちぎり絵』の先生です。大切な作品をいただきました。教室懇談会の折、控室に飾っておきますのでご覧下さい。(2012.5.1.)



左：食べたり遊んだりの写真が目立ちますが勉強ももちろんしています。(2012.5.26.)

下：保護者との触れ合いの場『日曜サロン』を再開しました。飲み物や食べ物を持ちよりで第1日曜日の夜7時30分からです。楽しいですよ！どうぞ皆さんご参加下さい。(2012.6.3.)



家政婦さん・『サポートやお』と『悠久園』のヘルパーさん・ケアマネージャーの方々の協力を得て、母の介護から解放されて3泊4日の8年ぶりの旅が出来ました。大好きな沖縄です。石垣島で1泊、日本の最西端与那国島で2泊しました。観光客ばかりでなく地元の人に出会うこともほとんどなく、のんびりと与那国馬が道を闊歩していました。景色も水も非常に美しい島でした。(2012.4.4~7.)



上：竹富島コンドイ岬の浜。星砂の浜です。

右：与那国島西崎（いりざき）灯台。天気の良いと台湾が肉眼で見えるそうです。

下：東崎（あがりざき）の灯台です。



馬はのんびり。水は冷たかった。頭上は西崎灯台です。



Dr. コトー診療所ロケ跡。
3日間毎日訪問しました。



編集後記

『学習塾百年の歴史』の中の私の原稿『学習塾の原風景』を読み返し、5年続かなかと考へて始めた教室でしたが、瞬間の34年間だったと思っています。国語は5科目の要だからと、大手塾ばかりか他の個人塾にも負けない国語指導における真剣な取り組み。受験だけでなく留学あるいは大学や大学院の勉強にまで威力を発揮する『語順訳』『速読英単語』の英語の勉強法。数学の苦手な子でも自信と実力をつけるようになる『カード式例題演習』の反復学習。私の教室を支えその特徴を成している学習法ですが、『当たり前のこと』を当たり前にやってきた30余年の積み重ねの結果に過ぎません。開塾当初、将来は地域に貢献できて『町の教育家』になれたらいいなあ…と、私は一つの夢を抱いていました。大阪教育大学教授の加賀田先生に授業参観をしていただいたり、大阪府立八尾高校の指導に招かれたり、少しはその夢に近付けているように思えます。ただ、塾を取り巻く環境は厳しさを増すばかりです。資本力のある大手塾はともかく、個人塾は大変な状況にあります。私の教室も例外ではなく、4・5年先に存続しているかどうかは不透明です。しかし、夢を捨てることなく、信念をぶれさせることなく、これからも妻と二人で『塾教育』に微力を尽くすつもりです。どうぞこれからも宜しくお願いします。

『教室だより』は当初保護者向けのものでした。現在保護者や卒塾生に約150部、全国の塾の先生に約70部、学校の先生方に約150部、出版等教育関係者に30部ほど、合計400部前後配布するようになっていきます。最近では保護者ばかりでなく、学校の先生方からの反響が多く嬉しく思っています。ご一読いただければ幸いです。

1979年 創塾
講師を雇わず夫婦二人で指導

『学校の授業』と『自分の勉強』を大切にさせ、その『自分の勉強』を学習面ばかりでなく精神面においても生徒諸君を支えていこう、と考へて指導している教室です。

〒581-0866
八尾市東山本新町5丁目8-1
Tel 072 (996) 7616・(996) 1020
Fax 072 (996) 1026
hik@alpha.ocn.ne.jp

国際教育学会 (ISE) 正会員
全国学習塾協会・関西私塾教育連盟 正会員

須原英数教室

